

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-01	戦略プラン	●協働 ○業務 ○財務 ○人事			
事務事業名	産業振興懇談会運営	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎	
		担当者名	前田	内線	457	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-11-01	産業振興懇談会運営費				
事務事業の種類	○新規事業（○2年度 ○元年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成 ○令和 17年度	根拠	荒川区産業振興懇談会設置要綱			
終期設定	●有 ○無	令和2年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画 ●非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市			
	政策	05	活力ある地域経済づくり			
	施策	01	産業基盤の整備・充実			
目的	区内産業の活性化を図るための今後の区内産業振興施策について、各分野の専門家や先進企業の経営者等の参画により検討を行い、具体化を図る。					
対象者等	産業振興懇談会委員					
内容	<p>【17年度】モノづくり産業振興に関する検討を実施するとともに、新産業の創造の促進に関する専門調査会を設置し荒川版クラスター形成に向けた検討を実施した。</p> <p>【18年度】モノづくり産業振興や新産業創造の促進に関する検討を引き続き実施するとともに、商業振興分科会及び小規模企業分科会を設置し、商業及び小規模企業振興策を調査検討した。また、産業振興施設設置に関する検討を実施した。</p> <p>【19年度～22年度】産業振興懇談会を各年度に2回開催し、懇談会で検討した施策の進捗状況や新たな事業等について審議した。</p> <p>【23年度～】これまでの産業振興懇談会で検討した施策の進捗状況や新たな事業等についての審議内容を踏まえ、必要に応じて懇談会を開催することとした。</p>					
経過	産業振興懇談会開催（平成17年度6回・18年度3回開催・19年度以降22年度まで各年度2回開催） 平成17年度 新産業の創造の促進に関する専門調査会3回開催 平成18年度 小規模企業分科会5回開催、商業振興分科会4回開催、視察会2回開催					
必要性	新たな産業振興施策の構築には、各分野の専門家や先進企業の経営者等による大所高所からの懇談が必要である。					
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）					
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	
	① 懇談会開催数	0	0	0	1	1
	②					
③						
事務事業の分類		分類についての説明・意見等				
2年度	3年度					
継続	休止・完了	新たな産業振興施策構築のために事業継続してきたが、他の事業等を通じて、専門家との連携体制が整ったことで役割は終えたと判断し、令和2年度を以って事業完了とする。				

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		363	351	351	351	342	352	352
決算額 (2年度は見込み)		0	0	0	0	0	0	352
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
懇談会開催数		0	0	0	0	0	0	1
専門調査会開催数		0	0	0	0	0	0	1
分科会等開催数		0	0	0	0	0	0	1

予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
報償費	委員謝礼	0	報償費	委員謝礼	0	報償費	委員謝礼	292
需用費	消耗品費等	0	需用費	消耗品費等	0	需用費	消耗品費等	26
役務費	テープ反訳	0	役務費	テープ反訳	0	役務費	テープ反訳	27
使用料等	懇談会会場使用料	0	使用料等	懇談会会場使用料	0	使用料等	懇談会会場使用料	7

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額
行政費用	給与関係費	965	448	▲ 517	地方税		
	物件費				国庫支出金		
	維持補修費				都支支出金		
	扶助費				分担金及び負担金		
	補助費等				使用料及び手数料		
	減価償却費				その他		
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	249	27	▲ 222	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 1,214	▲ 475
	その他行政費用				金融収支差額(d)		
	行政費用合計(b)	1,214	475	▲ 739	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 1,214	▲ 475
特別費用(g)				特別収入(f)			
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 1,214	▲ 475	

備考 会の開催自体を目的としていないため、産業振興施策に関して得た情報をもとに開催の有無を検討している。

問題点・課題 区内産業の振興に資する、新たな産業振興施策を効率的かつ効果的に検討するため、必要に応じて適宜実施するとしてきたが、平成23年度以降開催していない。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	会の開催自体を目的とせず、産業振興施策に関して得た情報をもとに、必要に応じて開催する。	懇談会の開催を検討するため、区内企業の情報や経済情報を収集した。	会の開催自体を目的とせず、識者を交えて新たな施策を検討する場合、必要に応じて開催する。
②			
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

況 議 会 質 問 状 平成17年 一定 区内産業の活性化に向けて、荒川区の産業のイメージと、その方向性について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-02	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	工業団体連合会補助事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎			
		担当者名	大野	内線	459			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-12-01	工業団体連合会補助						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 6年度	根拠	荒川区商工振興事業奨励補助金交付要綱					
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内	<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	05	活力ある地域経済づくり					
	施策	01	産業基盤の整備・充実					
目的	区内工業団体の活性化を図り、ものづくり産業の振興施策を効率的に展開するため、荒川区工業団体連合会が主催する事業に対し経費の一部を補助する。							
対象者等	荒川区工業団体連合会							
内容	○荒川区工業団体連合会が主催する事業に対し、経費の一部を補助する。 ・補助率：1/2 ・補助限度額：10万円 ・補助対象事業・経費（以下の4つに該当する事業） 1 生産性の向上または販路の拡張を目的とした事業 2 経営者・従業員の教育指導に関する事業 3 従業員の福利厚生に関する事業 4 団体活動の広報宣伝に関する事業							
経過	平成6年度 平成12年度まで 平成13年度以降	工業団体連合会補助開始（予算額200万円） パソコン講習会（区のIT講習会と競合し、収益も望めないで見直した。） 2月の第1週の金曜日に新年賀詞交歓会を開催						
必要性	区内のものづくり企業を束ねる唯一の団体であり、各団体の維持・継続のために一定の支援を行うことは必要である。							
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	事業参加企業数	37	41	41	41	50	
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
継続		継続 工業団体連合会は区内のものづくり企業を束ねる唯一の団体であり、その維持・継続のための一定の支援は、区内産業振興の観点から必要であるため、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		100	100	100	100	100	100	100
決算額（2年度は見込み）		14	14	31	19	20	22	100
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名（2年度は見込み）								
構成団体数		4	4	4	4	4	4	4
賀詞交歓会参加企業数		46	44	44	37	41	41	50

予算・決算の内訳								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	助成金	20	負担金補助等	助成金	22	負担金補助等	助成金	100

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
行政費用	給与関係費	1,448	1,344	▲ 104	地方税	0	0	0
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	20	22	2	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	374	80	▲ 294	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 1,842	▲ 1,446	396
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	1,842	1,446	▲ 396	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 1,842	▲ 1,446	396
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 1,842	▲ 1,446	396	

備考 荒川区工業団体連合会を支援するための補助費等が主な経費である。

問題点・課題 発足時の構成団体の6団体のうち、平成19年度に1団体が脱会。また、平成22年度には1団体が他団体に吸収合併されたため、現在は4団体となっている。製造業をはじめとした区内中小企業の廃業等に伴い事業所数が減少しているため、今後も加盟団体の参加企業数の減少が懸念される。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き、都や関係機関等と連携して、最新の情報を収集し、構成団体へ提供していく。	都や関係機関等と連携して最新の情報を収集し、会員工業団体の東京都工団連への参加を後押しした。	都や関係機関等と連携して、最新の情報を収集していく。
②	会員の交流の場を引き続き提供することで、連合会としての結束を図る。	産業分野における最重要テーマのひとつである事業承継に係るセミナーを実施した。	交流の場の提供とセミナー開催による最新情報又は有用情報の提供を、引き続き行っていく。
③			

他区の実況	(実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区)
	実施区：中央区、港区、品川区、大田区、練馬区、江戸川区

議会議況(要旨)	
----------	--

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-03	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	荒川区ものづくりセンサス	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎			
		担当者名	小嶋	内線	459			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	--							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 15 年度	根拠						
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	05	活力ある地域経済づくり					
	施策	01	産業基盤の整備・充実					
目的	区内の中小製造業等の経営状況や経営環境、区への要望等に関するアンケート調査を実施し、経営実態や特性を把握し、今後の区の産業振興施策の策定・実施に活用する。							
対象者等	区内の製造業、卸売業、貨物運送業							
内容	<p>平成29年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施機関：荒川区中小企業経営協会 ○実施期間：6月15日～10月10日 ○調査員：中小企業診断士 ○調査方法：各事業所を訪問し、調査票に沿って、アンケート形式で聞き取り。 ○特徴：単なる調査票の配布・集計ではなく、各事業所を巡回し、調査票の聞き取りを通じて、把握した経営課題への助言を行うとともに、内容に応じた区の支援事業を紹介するなど、課題解決の一助となるよう実施する。 							
経過	<p>平成15年度調査：区内製造事業所3,745事業所のうち、1,300事業所を抽出。 平成21年度調査：区内の工業系（建築業、製造業、運輸業、他に分類されないサービス業）5,460事業所のうち、1,300事業所を抽出。 平成25年度調査：区が有する企業情報データベースに製造業として登録されている事業所2,496事業所のうち、営業中の1,898事業所を調査対象とした。 平成29年度調査：区が有する企業情報データベースに製造業、卸売業、道路貨物運送業として登録されている事業所に加え、総務省所管の経済センサス基礎調査の調査票情報を活用し、当初母数2,815事業所（内調査対象1,830事業所）を調査。</p>							
必要性	区内製造業等の経営実態を把握し、今後の施策に活かすために、定期的に本調査の実施する意義は高い。							
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	回収率(%)	72.9				85	
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
休止・完了		推進		区内企業に寄り添った支援を行うには、調査結果を活用し、実態に基づいた施策立案が重要であるため、推進する。なお、調査は4年間隔程度で、次回は令和3年度に実施予定である。				

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		-	-	-	5,270	-	-	-
決算額（2年度は見込み）		-	-	-	5,093	-	-	-
実績の推移	事項名（2年度は見込み）	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	調査対象				1,830			
	回収数				1,334			
予算・決算の内訳								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
	実施しない			実施しない			実施しない	

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			勘定科目	30年度	元年度	差額
	30年度	元年度	差額				
行政費用	給与関係費	0	0	0	行政収入	地方税	
	物件費					国庫支出金	
	維持補修費					都支支出金	
	扶助費					分担金及び負担金	
	補助費等					使用料及び手数料	
	減価償却費					その他	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額					行政収入合計(a)	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	0
	その他行政費用					金融収支差額(d)	
	行政費用合計(b)	0	0	0		通常収支差額(c)+(d)=(e)	0
特別費用(g)				特別収入(f)			
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	0		

備考 4年に一度の実施のため、平成30年度から令和2年度までは実施しない。

問題点・課題
・今後の施策展開に向けて、調査項目等を検討する必要がある。
・調査先の理解が必要であるため、令和3年度に実施する際は、区広報誌等を通じ、実施について引き続き積極的にPRを行っていく。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	中小企業者の生産性向上のための設備投資に関する補助金及び事業承継促進のためのネットワークの構築等を実施する。	中小企業者の生産性向上のための設備投資に関する補助金及び事業承継促進のためのネットワークの構築等を実施した。	中小企業者の生産性向上のための設備投資に関する補助金をさらにPRする。
②			
③			

他区の実況
(実施 14 区 未実施 8 区 不明 0 区)
新宿区(28年度)、文京区(26年度)、台東区(27年度)、墨田区(25年度)、江東区(25年度)、品川区(28年度)、目黒区(29年度)、大田区(26年度)、世田谷区(27年度)、杉並区(29年度)、豊島区(24年度)、板橋区(29年度)、足立区(29年度)、江戸川区(13年度)

況議(要旨) 平成25年1定 調査時における、区職員の同行について
平成30年度6月会議 荒川区モノづくりセンサスに基づく産業の活性化について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-04	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事				
事務事業名	モノづくりクラスター形成促進事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	新山	内線	457		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-08-01	モノづくりクラスター形成促進事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業						
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 18 年度	根拠					
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3 年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	02	創業・新事業創出の支援				
目的	荒川区の産業集積や地域資源の豊かさを活かし、「産学公金の顔の見えるネットワーク」構築を軸とした「荒川区版産業クラスター」の形成をとおして、「新事業やベンチャーの創出」、「既存企業の第二創業や経営革新」を促進し、地域産業の活性化を図ることを目的とする。						
対象者等	区内モノづくりに関わるすべての事業者						
内容	荒川区の産業集積や地域資源の豊かさを活かし、「産学公金の顔の見えるネットワーク」構築を軸とした「荒川区版産業クラスター」の形成を目指すMACC（Monozukuri Arakawa City Cluster）プロジェクトを推進する。 1 ビジョンの策定と共有化 2 顔の見えるネットワーク構想 3 特定テーマ研究会の推進による先行事例の創出 4 フロントランナーの育成 5 若手異業種交流の推進 6 支援組織・支援体制の構築						
経過	平成18年6月 東葛川口つくば（TX沿線）ネットワーク支援活動の対象地域への位置付け、MACCプロジェクト立上げ 平成19年5月 MACCコーディネータの1名配置 平成20年4月 MACCコーディネータの1名増員配置（2名体制） 平成21年4月 MACCコーディネータの1名増員配置（3名体制） 平成22年4月 事業推進方法を業務委託から職員・MACCコーディネータによる直営に変更、効率化を図る。異業種交流活動支援事業を統合 平成23年4月 MACCコーディネータの1名増員配置（4名体制） 平成29年2月 MACCプロジェクト10周年記念交流会実施						
必要性	地域産業活性化のためには、「産学公金の顔の見えるネットワーク」構築を軸とした「荒川区版産業クラスター」の形成をとおして、意欲のある企業への積極的な支援が必要である。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値（8年度）	
	① 新製品・新技術の開発件数	2	2	1	5	10	MACCプロジェクト参加企業の新製品開発件数
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度		3年度					
重点的に推進	重点的に推進	地域経済活性化のためには、モノづくり産業の集積等を生かした「産学公金の顔の見えるネットワーク」構築を軸とした「荒川区版産業クラスター」形成への取組が極めて重要であり、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		22,256	22,567	24,449	22,798	22,643	23,062	26,029
決算額(2年度は見込み)		21,502	21,160	22,516	21,244	20,985	21,637	26,029
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	MACCプロジェクト参加企業数	95	94	100	104	104	104	104
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報酬	MACCコーディネータ報酬	17,210	報酬	MACCコーディネータ報酬	17,242	報酬	MACCコーディネータ報酬	19,222
共済費	MACCコーディネータ共済費	2,522	共済費	MACCコーディネータ共済費	2,517	共済費	MACCコーディネータ共済費	2,980
報償費	講師謝礼等	161	報償費	講師謝礼等	173	報償費	講師謝礼等	484
旅費	職員旅費	513	旅費	職員旅費	835	旅費	職員旅費	2,256
需用費	消耗品・印刷製本	117	需用費	消耗品・印刷製本	142	需用費	消耗品・印刷製本	389
役務費	郵送料・手数料等	269	役務費	郵送料・手数料等	214	役務費	郵送料・手数料等	231
委託料	パンフレット作成委託	49	委託料	パンフレット作成委託	514	委託料	パンフレット作成委託他	467

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
	行政費用	給与関係費	22,627	21,551	▲ 1,076	地方税	0	0
物件費		1,092	1,705	613	国庫支出金	0	0	0
維持補修費		0	0	0	都支支出金	0	0	0
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
補助費等		161	173	12	使用料及び手数料	0	0	0
減価償却費		0	0	0	その他	0	0	0
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
賞与・退職給与引当金繰入額		748	107	▲ 641	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 24,628	▲ 23,536	1,092
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
行政費用合計(b)		24,628	23,536	▲ 1,092	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 24,628	▲ 23,536	1,092
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 24,628	▲ 23,536	1,092

備考 主な支出は、MACCコーディネータの報酬、イベント等の経費、視察等の旅費。補助費等の内訳は、MACC通信原稿執筆料、フォーラム講師及びパネリスト登壇料、セミナー講師謝礼となる。

問題点・課題 これまで構築してきた「顔の見えるネットワーク」の幅を更に広げ、連携協定を締結している各機関、大学等ともより密接に情報交換を行う。また、今まで以上に積極的に区外企業等との連携機会を構築することで、企業の新たな収益に繋がる新製品開発・新事業展開等をより一層活発化させることが必要であると思われる。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	2年度を見据えたプロジェクトの方向性を検討し、コーディネータの専門的知見をいかした伴走型支援を図る。	2年度を見据えたプロジェクトの方向性を検討した結果、コーディネータの専門的知見をいかした伴走型支援を推進できた。	3年度を見据えたプロジェクトの方向性の見直しを図り、コーディネータの専門的知見をいかした伴走型支援を更に推進する。
②	各種事業、補助金等の情報収集や新製品開発・人材育成・経営改善・産学連携・販路拡大等を柱に企業支援を促進する。	各種事業、補助金等の情報収集や新製品開発・人材育成・経営改善・産学連携・販路拡大等を柱に企業支援促進に弾みをつけた。	補助金等の情報収集や新製品開発・人材育成・経営改善・産学連携・販路拡大・事業承継等を柱に企業支援を促進する。
③			

他区の実況	(実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区)
実施区	墨田・葛飾・足立・台東・世田谷・文京

況議(要旨)会質問状	平成19年2定 専門的な人的配置の強化について
------------	-------------------------

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-05		戦略プラン		●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	産学連携推進事業		部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
			担当者名	鈴木	内線	457		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-08-02	産学連携推進事業						
事務事業の種類	○新規事業（○2年度 ○元年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業			
開始年度	○昭和 ●平成 ○令和	18年度	根拠	産学連携研究開発支援事業補助金交付要綱 他				
終期設定	○有 ●無	年度	法令等					
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	05	活力ある地域経済づくり					
	施策	02	創業・新事業創出の支援					
目的	大学等との共同研究・委託に必要な経費の一部を補助することにより、産学連携による新製品、新技術開発を促進する。また、区内中小製造業者の技術力向上並びに区内中小製造業者と大学等との産学連携の推進を図る。							
対象者等	区内製造業者ほか							
内容	(1) 産学連携研究開発支援事業 区内中小企業が大学や研究機関等との共同研究や委託研究を行う費用の一部を補助 (2) 地域産業活性化研究補助事業 荒川区の地域産業の活性化または地域課題の解決に繋がるもので、成果が区民や区内中小企業に還元される研究を行う連携協定締結先の教育機関及び研究機関に対し、研究に要する費用を補助 (3) 試験研究機関活用支援事業 試験研究機関を利用した際に要する費用の一部を補助 (4) 企業課題相談支援事業 連携協定締結先の教育機関が行う技術指導や学術相談等に要する費用を支援 (5) 地域金融機関連携型課題解決支援事業 地域金融機関の職員を対象に、企業の課題や将来性等を適切に見極めるための講習等を実施							
経過	平成18年 産学連携研究開発支援事業開始 平成20年 モノづくり技術向上支援事業（現 企業課題相談支援事業）開始 平成20年 連携協定締結（都立産業技術高等専門学校及び山形大学工学部） 平成21年 地域課題解決型調査・研究補助事業（現 地域産業活性化研究補助事業）開始 試験研究機関活用支援事業を緊急実施 平成22年 各事業内容の拡充措置 平成24年 地域産業創出プロジェクト推進事業に係る調査委託実施 企業課題相談支援事業開始 連携協定締結（首都大学東京（現 東京都立大学法人）） 平成26年 企業課題相談支援事業拡充（創業予定者も支援対象に追加） 連携協定締結先拡充（東京電機大学、東洋大学及び東京都立産業技術研究センター） 平成28年 地域金融機関連携型課題解決支援事業開始							
必要性	区内製造業の「モノづくり」「技術開発力」を向上させるには、大学研究機関等と区内企業の連携を強化し、大学等が有する専門知識の活用が重要である。また、資金力に乏しい区内中小企業の産学共同による新製品開発等を促進するためには、産学連携研究開発補助は不可欠である。							
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）							
指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明	
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)		
	① 産学連携研究開発補助件数	3	2	2	2	5		
	② 企業課題相談支援事業利用件数（企業課題相談支援補助含む）	1	0	0	1	2	支援利用社数（≠利用回数）	
③ 試験研究機関活用支援補助件数	5	7	10	6	10	利用回数		
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度	3年度							
重点的に推進	重点的に推進	「産学公金の顔の見えるネットワーク」を構築するために、大学等が有する専門知識を活用した産学共同による新製品・新技術開発を支援することは極めて重要であり、重点的に推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		10,220	10,620	18,209	16,466	16,477	16,573	16,527
決算額(2年度は見込み)		4,397	4,319	12,750	13,875	10,854	11,998	16,527
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	産学連携研究開発補助件数	1	1	3	3	2	2	2
	企業課題相談支援事業利用社数	0	2	2	1	0	0	1
	試験研究機関活用支援補助件数	10	8	2	5	7	10	6
	地域産業活性化補助申請件数	8	5	4	7	3	5	5

平成30年度(決算)		令和元年度(決算)			令和2年度(予算)			
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
委託料	地域金融機関連携型課題解決支援事業等	7,745	需用費	認定式消耗品	10	報償費	パートナー報告会講師謝礼	139
負担金補助等	産学連携研究開発補助金等	2,943	役務費	研修室Wi-Fi通信料	198	需用費	認定式消耗品	21
			委託料	地域金融機関連携型課題解決支援事業等	7,850	役務費	研修室Wi-Fi通信料	197
			使用料等	認定式会場使用料	19	委託料	地域金融機関連携型課題解決支援事業等	8,235
			負担金補助等	産学連携研究開発補助金等	3,921	使用料等	認定式会場使用料	35
						負担金補助等	産学連携研究開発補助金等	7,900

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	5,791	4,033		▲ 1,758	地方税	0
	物件費	7,911	8,077	166	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	3,603	3,934	331
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	2,943	3,921	978	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	3,603	3,934	331
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,496	240	▲ 1,256	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 14,538	▲ 12,337	2,201
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	18,141	16,271	▲ 1,870	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 14,538	▲ 12,337	2,201
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 14,538	▲ 12,337	2,201

備考 地域金融機関連携型課題解決支援事業の業務委託費と、区内企業の産学連携を支援するための補助費等が主な経費である。元年度の補助費の増は、産学連携研究開発補助金や地域産業活性化研究補助金の実績増による。行政収入は、都からの補助金である。

問題点・課題 (1)産学連携等による新製品・新技術開発への取り組みが広まる中、更なる産学連携の推進を図るため、区内企業の意向・実態等及び大学の知見等を十分に把握し、効果的なマッチングを行っていく必要がある。
(2)区内企業が求めるシーズ(大学等が持つ技術、アイデア、ノウハウ等)に応えられるよう、その拡充を図る必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	大学や研究機関等との連携により、産学連携の有用性を区内企業へのPRを行う。	連携協定を締結している大学等と連携して、産学連携をテーマとした中小企業者向けのフォーラムを開催し、産学連携の効用を周知した。	引き続き、大学や研究機関との連携し、産学連携の有用性を区内企業へのPRを行う。
②	山形大学と更に連携を深め、講座内容等の充実を図る。	受講生が理解しやすい内容となるよう、山形大学と綿密な連携を取り、講座を実施した。	引き続き、山形大学との連携を深め、地域金融機関職員が企業の課題等を見極める力を付ける講座を実施していく。
③			

他区の実況 (実施 13 区 未実施 9 区 不明 0 区)
○産学連携補助系事業 7区(台東・江東・目黒・北・足立・葛飾・江戸川) ○研究費補助系事業 実施区なし
○技術支援系事業 6区(江東・品川・足立・北・目黒・葛飾) ○公設試活用系事業 12区(江東・品川・足立・北・千代田・台東・墨田・世田谷・板橋・葛飾・江戸川・港)

況議(要旨) 平成20年1定 「MACCプロジェクト」を中心とした区内企業の産学連携による新製品・新技術開発の取り組みと今後の展望について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-06	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	地域産業創出プロジェクト推進事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	新山	内線	457		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-08-03	地域産業創出プロジェクト推進事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業						
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	25年度	根拠				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	02	創業・新事業創出の支援				
目的	新ビジネスの発掘や区内産業の活性化を図るため、近隣自治体等とのネットワーク構築や新ビジネスの発掘・支援を積極的に推進する。						
対象者等	区内中小企業・関係支援機関等						
内容	1 区と大学による会議体組織（産学連携ネットワーク）の運営 近隣7区（足立区・葛飾区・板橋区・台東区・墨田区・北区・豊島区）とともにネットワークを形成し、各区の持つ大学等とのネットワーク活用を図るとともに、支援ノウハウの共有などにより、産学連携の効果的・効率的な推進を図る。 2 荒川区ビジネスプランコンテストの開催（「新製品・新技術大賞」と隔年で交互に開催） 地域課題の解決を目的としたテーマ、新事業・新商品創出及び展開に関するビジネスプランを公募し優秀なビジネスプランを選定することにより、意欲的な個人又は事業者を発掘する。 3 令和2、3年度の2か年に渡り、創業に向けたアントレプレナーセミナーとビジネスプランコンテストを行う。コンテスト受賞者は、事務所等賃料補助の対象とし、受賞者の区内創業を促す。						
経過	平成25年度 事業開始 産学連携ネットワーク関連会議等の開催（計4回） 荒川区ビジネスプランコンテストの開催 平成26・27年度 産学連携ネットワーク関連会議等の開催（H26計10回）（H27計6回） 平成27年度 第2回荒川区ビジネスプランコンテストの開催 平成28年度 フォローアップ（第2回コンテストファイナリスト対象）の実施・産学連携ネットワーク会議交流会（山形大学・首都大学・東洋大学・東京電機大学・上智大学・近畿大学等）開催 平成29年度 第3回荒川区ビジネスプランコンテストの開催 平成30年度 アントレプレナーセミナー、ビジネスプラン作成セミナーを開催 令和元年度 ビジネスプランコンテストを開催 ビジネスプランコンテスト受賞者を対象に賃料補助金を創設						
必要性	区内事業者数が減少傾向にあるなか、国が掲げる開業率の上昇に向けて、意欲的な個人や事業者の発掘・支援を行なうことは、地域課題の解決や活力の向上、新産業創出の可能性を高めることが期待でき、必要性が高い。						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 荒川区ビジネスプランコンテストについては、委託にて実施。						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値（8年度）	
	① ネットワーク参加機関数	8	8	8	8	8	
	② ビジネスプランコンテスト応募数	43		42		50	※隔年事業
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
重点的に推進	重点的に推進	産業の創成と活性化のためには、ビジネスプランコンテストの実施や近隣区とのネットワークを構築し、支援環境を整備することが極めて重要であり、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		267	4,123	859	6,188	3,070	4,368	5,535
決算額(2年度は見込み)		0	3,840	369	5,856	2,781	3,098	5,535
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	ビジネスコンテスト応募者数	-	34	-	43	-	42	-
	コンテストに向けた創業支援対象者数					30	18	40
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	コンテスト運営業者選定委員報償費	40	報償費	コンテスト賞金	750	需用費	消耗品費	20
委託料	コンテスト実施委託	2,742	委託料	コンテスト実施委託	2,298	委託料	アントレプレナーセミナー委託	3,015
			補助及び交付金	コンテスト副賞の賞料補助	50	補助及び交付金	コンテスト副賞の賞料補助	2,500

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	5,791	4,033		▲1,758	地方税	0
物件費	2,742	2,298	▲444	国庫支出金	0	0	0	
維持補修費	0	0	0	都支出金	1,269	1,548	279	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	40	800	760	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	1,269	1,548	279	
賞与・退職給与引当金繰入額	1,496	240	▲1,256	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲8,800	▲5,823	2,977	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	10,069	7,371	▲2,698	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲8,800	▲5,823	2,977	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲8,800	▲5,823	2,977	

備考 物件費は、セミナーやビジネスプランコンテスト等の運営委託費が主な支出である。行政収入は、都からの補助金である。

- 問題点・課題
- セミナー、コンテストの参加者を増やすため、相談会等の事前告知を兼ねたイベント実施が必要
 - 区内での創業促進と創業後の支援を視野に入れ、区内および近隣区からの参加者を募る
 - セミナー出席者、コンテスト応募者への継続的な創業に係る情報提供やフォローアップの実施

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	協定を締結する機関との連携を活用し、ネットワークに参加する他自治体を再構築する	他自治体にネットワークへの参加を促した	協定を締結する機関との連携を活用し、区内事業者への効果的な支援を行う
②	ビジネスプランコンテストの開催、その後のアフターフォローを含め、区内創業、産業の活性化につながる仕組みを構築	ビジネスプランコンテスト受賞者を対象に賞料補助金を創設し、補助金による支援を行った	区内創業につながるよう、アントレプレナーセミナーやビジネスプランコンテスト受賞者へのアフターフォローを実施
③			

他区の実況 (実施 10 区 未実施 12 区 不明 0 区)
 ビジネスプランコンテスト 実施区：大田・品川・足立・江戸川・中野・北・墨田・港・文京・千代田

議会議決(要旨)

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-07	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	起業家支援育成事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	新山	内線	457		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-09-01	起業家支援育成事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	9年度	根拠	荒川区事務所等賃料支援事業補助金交付要綱			
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		令和3年度	法令等			
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	02	創業・新事業創出の支援				
目的	産業競争力強化法に基づき国に認定された荒川区創業支援事業計画を、民間の創業支援事業者と連携協力しながら意欲的に実行することにより、区内における創業を推進し産業の活性化に寄与することを目的とする。						
対象者等	原則、区内で創業しようとする者						
内容	<p>○産業競争力強化法に基づく「荒川区創業支援事業計画」を策定し、荒川区中小企業経営協会、城北信用金庫、山形大学工学部、東京商工会議所荒川支部及び日本政策金融公庫上野支店・千住支店と連携して創業支援を実施。</p> <p>《主な支援メニュー》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門相談（窓口、訪問、相談会等）※庁舎での窓口相談は週5日体制（月～金） ・ 創業支援セミナー（基礎コース、専門分野に特化したコースを開講 ※専門家が講師を勤める） ・ 融資利率優遇 ※城北信用金庫の創業融資（制度融資）にあつた場合、利用者の金利負担なし <p>○事務所等賃料補助事業（2年間補助実施。補助金額上限は1年目：5万円/月、2年目：3万円/月）</p> <p>※創業支援計画開始後、専門相談員等と連携して補助金受給者へのフォローを充実</p>						
経過	<p>平成16年度 女性起業家コース・店舗開業コース・会社設立コースの3コースを実施</p> <p>平成23年度 女性起業家コース及びシニアコースを休止</p> <p>平成24年度 創業支援相談員配置、創業支援セミナー新設、事務所等賃料補助開始</p> <p>平成25年度 創業チャレンジセミナー開講（23年度に休止したものを、開催形態を改めて再開）</p> <p>平成26年度 産業競争力強化法に基づく荒川区創業支援事業計画を実施</p> <p>※24年度以降、専用相談窓口、セミナー、事務所等賃料補助を総合的に実施。（平成26年1月に施行された産業競争力強化法に基づく認定申請を行い、26年3月20日に第1号認定を受けた。）</p> <p>平成27年度 起業家交流会開始（都広域連携補助金を活用し北区と連携開催。28年度より豊島区追加）</p> <p>平成28年度 ファッションビジネスセミナー開始</p>						
必要性	区内における事業所数の減少傾向が続いている中、区内での創業支援は、区内産業の活性化、雇用及び地域の賑わい創出につながる極めて重要な施策であり、その必要性は高い。						
実施方法	<p>（2一部委託）（直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）</p> <p>創業相談及び創業支援セミナーは、荒川区中小企業経営協会から相談員や講師の派遣を受け実施。</p>						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 受講者の開業者数（人）	8	2	4	5	18	*スタートアップ受講者
	② 受講者の開業率（%）	50	17	26	25	30	*スタートアップ受講者
③ 受講者数（人）	16	12	15	20	60	*スタートアップ受講者	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
重点的に推進	重点的に推進	創業支援は、創業期にある事業者の成長にとって不可欠なものであり、区内産業の活性化及び雇用や地域の賑わい創出の観点からも極めて重要であり、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		12,566	13,495	16,297	16,860	16,771	15,031	15,890
決算額(2年度は見込み)		6,854	11,015	11,055	11,644	11,520	12,396	15,890
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	受講生数(実数)	27	30	22	16	12	15	20
	受講者の開業数	4	6	7	8	2	4	5
	事務所等賃料補助件数	8	9	4	7	8	5	10

予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	講師・審査員・相談員謝礼	3,839	報償費	講師・審査員・相談員謝礼	3,844	報償費	講師・審査員・相談員謝礼	4,649
役務費	講師・審査員・相談員謝礼	1,117	需用費	チラシ印刷	64	旅費	訪問調査旅費	24
委託料	起業家交流会チラシ作成委託	75	役務費	講師・審査員・相談員謝礼	1,134	需用費	印刷製本費等	373
	事務所等賃料補助	6,400	委託料	起業家交流会開催委託	495	役務費	講師・審査員・相談員謝礼	992
			使用料等	会場使用料	95	委託料	起業家交流会開催委託	699
				事務所等賃料補助	6,764	使用料等	会場使用料	143
							事務所等賃料補助	9,010

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	5,308	1,793		▲ 3,515	地方税	0
物件費	1,281	1,788	507	国庫支出金	0	0	0	
維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	10,239	10,608	369	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
賞与・退職給与引当金繰入額	1,372	107	▲ 1,265	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 18,200	▲ 14,296	3,904	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	18,200	14,296	▲ 3,904	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 18,200	▲ 14,296	3,904	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 18,200	▲ 14,296	3,904	

備考 物件費は、起業相談員やセミナー講師等への謝礼(役務費)が多くを占めている。
補助費等は、事務所等賃料補助及び起業相談員やセミナー講師等への謝礼(報償費)が多くを占める。

- 問題点・課題
- (1) 創業支援事業の利用者増を図るため、引き続き制度を積極的に推進していく
 - (2) 民間主体の創業支援事業者や荒川中小企業経営協会と連携し、創業に向けた機運醸成を図る
 - (3) 創業者を増やすため、創業支援セミナーや創業相談窓口の利用を推進する

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	創業支援事業者と連携してセミナー参加者の増加を図り、フォローとして荒川中小企業経営協会主催の創業サロン等を活用していく	創業支援セミナー参加者が、創業サロンにて相談するというケースが多く、フォローに繋がった	創業についてインプットする場をセミナーで、アウトプットする場を創業相談窓口等で支援していく
②	創業支援施設の開設にむけ、支援メニューや民間事業者との新たな連携をしていく	事業者選定において、開催予定のセミナーの内容等について提案を受けた。なお、事業者は2年度4月に決定した	事業者決定以降、入居者等に向けた創業に係る有益な支援を事業者と勘案し、実行していく
③	参加型ワークを取り入れるなど、引き続きプログラムの改善を図り、参加者の満足度の向上につなげる	参加者同士がコミュニケーションできるセミナーを実施した	スタートアップコースについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施する。

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
創業支援事業計画認定区：台東、墨田、大田、中野、豊島、板橋、練馬、足立、江戸川、文京、江東、品川、杉並、北区、港区、新宿区、渋谷区、千代田区、中央区、目黒区、世田谷区、葛飾区(平成26年～28年の間で認定)	

況議(要旨)問状	平成15年2定 荒川区を「創業しやすいまち」にして、全国から起業家、特に女性の起業家を呼び寄せて産業活性化を図るべき。
	平成20年2定 区内での創業事例を成功・失敗要因を含めて把握し、今後の支援策に生かすこと。
	平成24年1定 厳しい経済環境の中、起業支援の機能強化を図るべき。
	平成24年3定 シニア世代の培った経験等を生かした起業・創業の支援に注力すべき。

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-08	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	中小企業融資事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	五十嵐	内線	467		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-01-02	利子補給					
	01-01-03	信用保証料補助					
	01-01-04	融資事業事務費					
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 26年度		根拠	荒川区中小企業融資要綱			
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 令和3年度		法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	区の融資あっせん制度を利用する区内中小企業の事業者に対し、区が利子の一部及び信用保証料の全額又は一部を補助することにより、融資借受に伴う負担軽減を図り、事業経営の安定と経営基盤の強化を支援する。また、経営、税務、金融及び創業等の専門知識を持つ相談員（税理士、中小企業診断士）を配置した相談窓口を開設し、事業者の経営等の支援を行う。						
対象者等	○中小企業融資制度の借受者 ○融資及び経営改善、創業等に取り組む相談希望者						
内容	○利子補給 ・融資の種類別に本人負担金利を設定し、表面金利と設定した利子の差を金融機関に補給 ○信用保証料 ・融資の種類別に補助率を設け、融資借受者に信用保証料の全額又は1/2を補助 ○融資相談 ・税務、財務、金融相談（税理士）：火曜日の午後1時から4時まで ・経営、創業、事業承継等相談（中小企業診断士）：月～金曜日の午前9時30分から午後5時まで ○その他 ・融資管理システムの維持、融資パンフレットの作成、申込用紙等の印刷、消耗品の購入						
経過	○利子補給 昭和46年度開始 ○信用保証料補助 昭和36年度開始、平成10年度に2本まで補助、平成20年度からすべて補助（一部対象外） ○融資相談 昭和26年度商工相談開始、平成5年度から商工相談と融資相談を統合 ○中小企業融資システム 昭和63年度導入、平成4年、12年、19年、25年及び30年に新規機器導入 ○緊急保証に係る認定 平成20年10月31日から平成23年3月31日まで ○東日本大震災復興緊急保証に係る認定 平成23年5月16日から実施 ○生活資金融資 平成25年4月から実施 ○新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急融資及び認定 令和2年2月から実施						
必要性	区内中小企業の事業資金の調達に係る負担を軽減することで、事業経営の安定化及び経営基盤の強化を図る。						
実施方法	（ <input checked="" type="radio"/> 一部委託） （ <input type="radio"/> 直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 【利子補給】四半期ごとに利子の補給額を積算し、金融機関と照合した後、直接金融機関に支払う。 【信用保証料】金融機関からの融資実行報告に基づき、信用保証料補助対象者の口座に振込む。						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 融資実行件数	773	885	882	1,800	900	2年度は、新型コロナウイルス対応のため、大幅に増加予定
	② 融資相談件数	343	189	174	200	430	
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
重点的に推進	重点的に推進	区内中小企業者が金融機関の融資を利用する際、区が利子の一部や信用保証料の全額又は一部を補助する制度は、借受に伴う負担を軽減し、事業経営の安定と経営基盤の強化を図るため重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		325,206	304,623	269,104	268,363	374,490	372,522	390,898
決算額(2年度は見込み)		201,278	199,984	194,313	189,393	234,265	226,287	390,898
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名(2年度は見込み)								
利子補給額(千円)		111,790	113,098	115,274	113,890	116,473	125,360	145,664
信用保証料補助額(千円)		82,557	79,955	72,231	68,945	106,700	94,845	236,965
信用保証料補助件数		754	709	749	702	809	728	1,800
融資相談件数		353	414	335	343	189	174	200

予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報酬	融資相談員報酬	2,769	報酬	融資相談員報酬	2,771	報酬	融資相談員報酬	2,932
共済費	社会保険料	231	共済費	社会保険料	143	共済費	社会保険	500
報償費	相談及び企業診断謝礼	2,605	報償費	相談及び企業診断謝礼	2,546	報償費	相談及び企業診断謝礼	3,538
需用費	消耗品・印刷製本	87	需用費	消耗品・印刷製本	232	需要費	消耗品・印刷製本	443
委託料	システム保守	5,403	委託料	システム保守	393	委託料	システム保守	496
負担金補助等	利子補給	116,473	負担金補助等	利子補給	125,360	負担金補助等	利子補給	145,664
負担金補助等	信用保証料補助	106,700	負担金補助等	信用保証料補助	94,845	負担金補助等	信用保証料補助	236,965

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		30年度	元年度	差額	行政収入	勘定科目		30年度	元年度	差額
	給与関係費		39,192	15,461	▲ 23,731		地方税		0	0	0
物件費		5,489	624	▲ 4,865	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支出金		0	0	0		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		225,777	222,749	▲ 3,028	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		9,869	7,632	▲ 2,237		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		9,869	7,632	▲ 2,237		
賞与・退職給与引当金繰入額		9,353	746	▲ 8,607	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 269,942	▲ 231,948	37,994		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		279,811	239,580	▲ 40,231	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 269,942	▲ 231,948	37,994		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		35	0	▲ 35		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		35	0	▲ 35	当期収支差額(e)+(h)		▲ 269,907	▲ 231,948	37,959		

備考 物件費の減少は、融資システムの更新が完了したためである。補助費の構成は、信用保証料の補助金及び利子補給金である。行政収入は、繰上償還に伴う信用保証料補助金の返還分である。

問題点・課題 令和元年度の融資実績は、30年度に比べ件数で4件の減少の881件、実行金額で2億8,374万円減少の50億3,619万円であった。実行件数については、昨年と比べ減少したが、あっ旋件数については、昨年を上回った。主な要因は、新型コロナウイルス対応融資(小規模特別資金融資)の増加である。今後も新型コロナウイルス対策に注視していく。
(件数：30年度 37件 元年度 124件(87件増)
金額：30年度 1億5,285万円 元年度 5億6,484万円(4億1,199万円増)

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	環境保全対策融資の本人負担金利の見直しを行い、更に利用しやすくしていく。	次年度に向け、環境保全融資の取扱いの検討を行い、環境課と連携した融資にしていく。	環境保全対策融資の利用については、エコフワード宣言を行っていただき、環境に配慮した設備導入を推進していく。
②			
③			

他区の実況	(実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区)
【信用保証料補助】未実施6区(文京区、大田区、世田谷区、中野区、杉並区、板橋区) (「平成27年度東京都区市町村制度融資実績表」による)	

況議(要旨)	金融円滑化法について 平成24年3定 融資制度の課題について 平成26年1定 区内企業と創業への支援の強化について 平成27年度2月会議 資金繰りへの支援について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-09	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	中小企業融資原資預託	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	五十嵐	内線	467		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-01-01	中小企業融資原資					
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 36年度	根拠	荒川区中小企業融資要綱				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	中小企業融資制度を長期・固定・低利で運営するため、取扱金融機関に対して融資の呼び水として原資を預託し、これをもって融資の実行率を上げる。						
対象者等	○荒川区中小企業融資取扱金融機関 【令和2年度】15金融機関・49店舗・預託金額10億円 〔内訳〕（銀行）7銀行16店舗・9,900万円、（信用金庫）5信金26店舗・8億6,700万円、 （信用組合）2信組4店舗・2,400万円、（労働金庫）1店舗・1,000万円						
内容	○預託金額算出方法 (1)年度末貸付残高(見込)の1/10相当額を目安に計上し、年度当初の制度融資取扱金融機関の融資残高に応じて各金融機関に預託。 (2)預託金は、原則として区内の支店等に預託し、区外支店分については区内支店等のうち幹事行を定め、幹事行分を含めて預託。 ○預託金配分方法 各金融機関の年度当初の貸付残高に応じて按分 ○預託方法 ペイオフ完全実施に伴い、17年度以降普通預金から決済用預金(無利息)に変更 ○預託期間 4月1日から翌年3月25日頃						
経過	〔昭和36年度〕中小企業年末小額融資発足(預託1,500万円) 〔平成6年度〕融資目標額方式から貸付残高方式(融資残額の1/5)に変更 〔平成15~17年度〕ペイオフ実施に伴い、順次預託方法を変更し、最終的に決済用預金で預託 〔平成18年度〕預託金額を3分の1に減額 〔平成25年度〕生活資金融資を実施						
必要性	平成19年10月からの責任共有制度の実施及び景気低迷による金融機関の融資先企業の選別の可能性など、その後も中小企業融資を取り巻く景気が不透明なため、預託を継続する必要がある。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)						
指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 融資実行件数	773	885	881	1800	900	
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
継続	継続	長期にわたる景気低迷の影響を受け、依然として区内中小企業を取り巻く環境は、厳しい状況である。区内中小企業の事業資金調達の円滑化や経営の安定化を図る観点から、預託を継続的に実施する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
決算額（2年度は見込み）		1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名（2年度は見込み）								
年度内新規あっ旋額（億）		50.6	53.7	51.4	46.6	62.5	59.5	70.0
年度内新規実行数		771	785	825	773	885	881	1800
年度内新規実行額（億）		40.9	46.8	43.7	41.5	53.2	50.3	60.0
年度末貸付残高（億）		99.9	103.6	102.5	97.9	105.5	110.3	115.0

予算・決算の内訳

平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
貸付金	中小企業融資原資	1,000,000	貸付金	中小企業融資原資	1,000,000	貸付金	中小企業融資原資	1,000,000

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
行政費用	給与関係費	2,413	6,274	3,861	地方税	0	0	0
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	624	373	▲ 251	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,037	▲ 6,647	▲ 3,610
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	3,037	6,647	3,610	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,037	▲ 6,647	▲ 3,610
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,037	▲ 6,647	▲ 3,610	

備考
・主に給与関係費が行政費用の多くを占める。預託金は、その性質上、物件費等は発生しない。
・預託金は、金融機関の貸付残高に応じて、配分を行っている（預託原資10億円）

問題点・課題
預託制度は23区中13区が廃止しているが、平成19年10月の信用保証制度の改正による責任共有制度（信用保証協会80%と金融機関20%の融資実行に係る保証割合の共有）の実施や、現在の不透明な経済状況を鑑みると、金融機関による貸出先の選別及びリスク相当分の貸出金利への転化等の懸念が考えられるため、金融機関に対する融資の呼び水として、預託は継続する必要がある。
令和元年度より、預託金の取扱いを事務の効率化を図るため、預託金を口座振込にて預託し、預託金の返還を納付書にて行うよう改めた。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	預託金の預入を口座振替に改め、預託金の返還を納付書にて返還するように改めた。（手形交換所経由の取引を改めた）	預託金の預入及び返還が簡易となり手続きが容易になった。	引き続き、預託金についての検討を行っていく。
②			
③			

他区の実況
(実施 9 区 未実施 13 区 不明 0 区)
・預託金について
実施：9区（千代田区・中央区・港区・新宿区・台東区・江東区・大田区・北区・葛飾区）
※27年度東京都区市町村制度融資実績表による。

況議会質問
平成20年3定 代弁金額を区が保証して、希望金額の融資可能について
平成22年1定 政府の中小企業支援策について
平成23年2定 震災、計画停電に売上減少対策としての緊急融資について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-11	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	企業経営・技術・情報等相談事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎正剛			
		担当者名	杉本・小嶋	内線	459			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-01	企業経営等相談事業						
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業							
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 56 年度	根拠						
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和 3 年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内	<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	05	活力ある地域経済づくり					
	施策	03	企業経営革新の支援					
目的	専門知識を有する企業相談員が、区内企業を巡回訪問し、受発注、下請取引、技術開発、企業のIT化などの経営相談を行うとともに、区の産業施策の紹介、協力の要請、また、訪問管理システムのデータ収集などを行うことにより区内産業の活性化を図る。							
対象者等	区内企業等							
内容	企業相談 企業相談員による、企業経営・人材育成等相談、受発注の開拓及び販路拡大等の支援、企業の新技術・新製品開発及びモノづくりの支援、企業のIT化支援、区内の創業・開業等の支援の実施（電話・窓口・企業巡回） 新型コロナウイルス感染症に関する中小企業等相談窓口設置事業 ※令和2年度に限り実施 中小企業者、NPO法人等が国の持続化給付金や雇用調整助成金、都の感染拡大防止協力金等を申請する際の手続を支援するため、中小企業診断士、税理士、社会保険労務士等の専門家が常駐する窓口を産業経済部会議室に開設する。（予算16,576千円） 実施期間：令和2年6月1日から令和3年1月31日まで 受付日時：月曜日から金曜日（原則、祝日及び閉庁日を除く）の午前10時から午後4時まで							
経過	平成9年度 企業相談員を5名から4名へ減員 平成17年度 産業Netの維持管理及び企業のIT化支援を強化するため、1名を創業・IT推進係へ配置替え。これにより現在の3名体制へ。 平成21年度 「中小機構サテライト事業」で実施していた「日暮里経営相談会」を当該事業に移管会場となった西日暮里スタートアップオフィスの終了に伴い「日暮里経営相談会」も合わせて終了した。 平成24年度 令和2年度 新型コロナウイルス感染症に関する中小企業等相談窓口 設置(当該年度限り)							
必要性	区内企業の現況調査、受発注や企業相談等への迅速な対応、企業間のマッチング等を的確に行うためには、専門知識を有するとともに、区内企業の現状を把握し、かつ信頼関係を築いていることが重要であるため、必要性は高い。							
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	巡回企業数	1509	1508	1395	1400	1400	延べ巡回企業数
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
推進	推進	企業相談員の区内企業への巡回相談や情報提供は、区内企業の経営課題の解決、経営基盤の強化の一助となるとともに、区内産業の活性化に資する事業であるため、推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		12,373	12,298	12,478	12,395	12,161	11,919	17,333
決算額(2年度は見込み)		12,050	11,546	12,033	11,620	11,573	11,565	17,333
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	巡回企業数	1,073	1,207	1,293	1,509	1,508	1,395	1,400

予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報酬	企業相談員報酬	10,202	報酬	企業相談員報酬	10,207	報酬	企業相談員報酬	9,796
共済費	社会保険料	1,154	共済費	社会保険料	1,141	職員手当	企業相談員期末手当	1,935
旅費	企業相談員費用弁償	19	旅費	企業相談員費用弁償	150	共催費	社会保険料	1,399
需要費	消耗品	9	需要費	消耗品	160	報償費	(仮)企業相談員「ハイク」	3,191
委託料	施策ガイド作成委託	189		施策ガイド作成委託	204	旅費	企業相談員費用弁償	602
						需用費	消耗品	160
							施策ガイド作成委託	250

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		30年度	元年度	差額	行政収入	勘定科目		30年度	元年度	差額
	給与関係費		11,839	11,852	13		地方税		0	0	0
物件費		217	161	▲56	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支支出金		0	0	0		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		0	0	0	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		0	0	0		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		0	0	0		
賞与・退職給与引当金繰入額		125	27	▲98	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲12,181	▲12,040	141		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		12,181	12,040	▲141	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲12,181	▲12,040	141		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲12,181	▲12,040	141		

備考 物件費の主なものは、施策ガイド作成委託である。

問題点・課題 区内中小企業の現況や経営者等の意見・要望を産業振興施策に反映させるため、企業相談員が巡回相談により得た景況感や企業情報等を部内で共有化し、事業に活かすように取り組んでいく。巡回相談の内容も受発注から経営、税務等多岐に亘るようになってきた。複雑な相談には高度専門家派遣事業に繋ぎ、同行することも増えてきている。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区内事業者への巡回相談、情報提供のほか、経営課題を抱える事業者を高度専門家等に繋げる。	区内事業者への巡回相談、情報提供のほか、経営課題を抱える事業者を高度専門家等に繋げた。	製造業のデータベース確認のため、今まで訪問していない事業者も巡回し、データベースの更新を進める。
②			
③			

他区の実況 (実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区)
港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、目黒区、大田区、世田谷区、豊島区、北区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区

議会議決(要旨)

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-12	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	中小企業倒産防止共済等加入助成事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	大野	内線	459		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-02	中小企業倒産防止共済等加入助成事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 18 年度	根拠	補助金交付要綱（中小企業倒産防止共済加入助成、中小企業退職金共済掛金補助金）				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3 年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	<p>国が運営する共済制度への加入時の掛金を助成することで制度への加入を促し、区内中小企業の経営基盤の強化を図ることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（独）中小企業基盤整備機構が運営する「中小企業倒産防止共済制度」「小規模企業共済制度」 ・（独）勤労者退職金共済機構が運営する「中小企業退職金共済制度」 						
対象者等	区内中小企業						
内容	<p>①「中小企業倒産防止共済制度」に新たに加入した企業を対象に、掛金の一部を助成する。 [助成額]各月の掛金の2分の1（月額上限2万円）[助成期間]契約から6か月</p> <p>②「小規模企業共済制度」に新たに加入した企業を対象に、掛金の一部を助成する。 [助成額]各月の掛金の2分の1（月額上限1万円）[助成期間]契約から6か月</p> <p>③「中小企業退職金共済制度」に新たに従業員を加入した企業を対象に、掛金の一部を助成する。 [助成額]加入月から12ヶ月の掛金相当額の2分の1（上限 従業員1人につき2万円） [助成期間]契約から12か月</p>						
経過	平成18年度	区内企業の連鎖倒産を防止及び企業の信用力の向上に資するため、「中小企業倒産防止共済制度」に対する掛金助成制度開始					
	平成23年度	「中小企業倒産防止共済制度」の制度改正に伴い、区においても掛金助成限度額を月額1万円から2万円に増額					
	平成25年度	荒川区勤労者福祉サービスセンターの東京城北勤労者サービスセンターへの合併に伴い、「中小企業退職金共済制度」に対する掛金助成制度を区が実施					
	平成27年度	区内小規模企業者の事業廃止後の生活安定や再建を図るための資金準備に資するため、「小規模企業共済制度」に対する掛金助成制度を開始					
必要性	「中小企業倒産防止共済制度」に対する掛金助成制度は、区内企業の連鎖倒産の防止が期待できるものであり、必要性は高い（なお、東京都においても、平成19年の秋以降の急激な景気後退への対応として、平成20年12月から平成22年3月までの間、時限的に同様の助成制度を実施した。）						
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 倒産防止共済加入率（%）	19.2	19.8	20.9	21.0	28.0	加入者数/区内事業所数(28年～9,060社:経済センサ)
	② 退職金共済加入率（%）	11.8	11.7	11.7	12.0	12.7	加入者数/区内事業所数(28年～9,060社:経済センサ)
③ 小規模企業共済加入率（%）	34.1	35.6	39.0	39.0	43.0	加入者数/区内事業所数(28年～9,060社:経済センサ)	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
推進	推進	下請構造が強い区内企業の経営基盤を強化する事業であるため、推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		1,900	2,800	5,600	6,520	6,520	6,520	6,520
決算額(2年度は見込み)		1,328	2,390	5,270	4,376	5,125	3,748	6,520
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	補助金利用企業数(倒産防止共済)	16	28	20	22	18	17	30
	補助金利用企業数(退職金共済)	1	3	0	2	1	1	5
	補助金利用企業数(小規模共済)		2	67	44	62	31	65

予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
負担金補助等	助成金	5,125	負担金補助等	助成金	3,748	負担金補助等	助成金	6,520

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
	給与関係費	965	896	▲ 69	地方税	0	0	0
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	5,125	3,748	▲ 1,377	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	249	53	▲ 196	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 6,339	▲ 4,697	1,642
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	6,339	4,697	▲ 1,642	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 6,339	▲ 4,697	1,642
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 6,339	▲ 4,697	1,642

備考 小規模企業共済掛金補助の利用一巡に伴い、昨年度から減少傾向。一方、当該事業の認知度も高まっており、今後も一定程度の費用負担が予想される。

問題点・課題 「中小企業倒産防止共済制度」に対する掛金助成について、平成21年度は当区の制度と連携して、東京都が平成20年12月から平成22年3月まで緊急施策として中小企業倒産防止共済掛金緊急助成事業(補助率3/4、月額上限8万円)を実施したことから、申請件数が急増。その後申請件数が減少したものの、再び増加傾向にある。連鎖倒産を防止する観点から本制度は効果的であり、引き続き中小機構等の関係機関と連携し、倒産防止共済制度及び掛金助成制度を周知し、加入促進を図る必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	(独) 中小企業基盤整備機構や加入手続きを行う金融機関、青色申告会等の協力を得て、より一層制度の周知を図っていく。	金融機関、青色申告会からの紹介を受けた申請者が増加。	引き続き窓口となる機関との連携を強化するとともに、様々なチャネルを活用し、一層の制度周知を図っていく。
②			
③			

他区の実況 (実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区)
 「中小企業倒産防止共済制度」に対する掛金助成
 ・大田区：月額掛金に応じて助成額が異なる 助成額3,500円~10,000円、12か月間(H29.6.30で終了)
 ・葛飾区：従業員ごとの掛金総額に3分の1を乗じて得た額を合計した額。年額50万円を限度

況議
会
質
問
状

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-13	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	工場建替促進事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	杉本	内線	459		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-03	工場建替促進事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 9年度	根拠	荒川区工場建替え家賃補助金交付要綱				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度に終了年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内	<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	老朽化等により区内で工場の建替えを行う企業に対して、建替え期間中の賃貸工場に係る家賃の一部を補助することによって、区内での操業の維持と環境の改善を図り、活力ある産業のまちを目指す。						
対象者等	区内で工場を建替える際に、民間賃貸工場を利用する中小企業の製造業者。						
内容	建替え期間中の賃貸工場に係る家賃の一部を補助する。 ・補助率 1/3 ・補助額 月額10万円限度（千円未満切捨て） ・補助期間 最大12か月						
経過	平成9年 制度開始 平成11年9月 要綱改正 添付書類の簡素化						
必要性	区では直営の賃貸工場施設を保有していないため、工場建替に伴い民間賃貸工場を賃借する区内中小企業の経費負担を軽減することにより、事業の継続性の確保と区内での定着促進に一定の効果がある。						
実施方法	（ <input checked="" type="radio"/> 直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 荒川区内の製造業事業者数	1711	1711	1711	1711	1800	経済センサス(H28)
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
継続	継続	区内の工場定着のために必要であるため、継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		708	1,000	920	611	1,728	602	646
決算額 (2年度は見込み)		0	1,000	716	264	1,728	0	646
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
助成件数		0	2	2	1	2	0	1
予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
負担金補助等	補助金	1,728	負担金補助等	補助金	0	負担金補助等		646

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額
	給与関係費	483	0	▲ 483	地方税	0	0
	物件費	0		0	国庫支出金	0	0
	維持補修費	0		0	都支支出金	0	0
	扶助費	0		0	分担金及び負担金	0	0
	補助費等	1,728		▲ 1,728	使用料及び手数料	0	0
	減価償却費	0		0	その他	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0		0	行政収入合計(a)	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	125	0	▲ 125	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 2,336	0
	その他行政費用	0		0	金融収支差額(d)	0	0
	行政費用合計(b)	2,336	0	▲ 2,336	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 2,336	0
	特別費用(g)	0		0	特別収入(f)	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 2,336	0

備考 補助費等は、工場建替を促進する貸工場の賃料補助である。

問題点・課題 工場建替補助制度の利用を促進するためには、企業相談員が巡回中に周知することが効果的であるが、廃業する製造業が増えている。また、建替期間中の賃借工場は区内に限定していないものの、宅地化が進み適当な賃借工場が区内や隣接する地域に少なくなっていることも建替えを難しくしている。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	企業相談員による企業支援メニューの配布の他、電話での問い合わせには、資料送付等迅速な対応を行う。	企業相談員による企業支援メニューの配布による周知の他、電話での問い合わせには、資料送付等迅速に対応した。	企業相談員による企業支援メニューの配布の他、工場の建替えを検討している事業者へ周知する。
②			
③			
他区の実況	(実施 1 区 未実施 21 区 不明 0 区)		
議会議案(要旨)	大田区		

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-14	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事				
事務事業名	あらかわ経営塾	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	島田	内線	459		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-06-02	あらかわ経営塾運営費					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 17 年度	根拠					
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3 年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	・企業の経営陣自らが専門知識やマネジメント能力を習得することにより、自社の経営課題の把握と解決、その後の経営の発展に向けた戦略的経営計画の策定及び実践を通じて、企業力向上と経営の革新を図る。 ・次代の区の産業界を担う人材の育成と企業間連携の促進を図る。						
対象者等	区内中小企業の経営者、経営幹部、後継予定者等						
内容	【経営塾の概要】 1 実施回数 講義等 6回（講義3回、グループ演習2回、成果発表） 個別指導（経営革新計画等の作成を主眼に1企業3回程度） 2 募集人数 12社程度 3 会場 産業経済部研修室等 4 主催等 主催：荒川区 協力：独立行政法人中小企業基盤整備機構 5 名誉塾長 二神恭一氏（早稲田大学名誉教授）※平成30年度から名誉塾長 6 講師 中小機構経営支援アドバイザー及び中小企業診断士等 7 その他 平成27年度は、「荒川区・中小機構 業務連携10周年成功事例集」を作成。						
経過	平成17年度 ビジネスプラン策定を目標にあらかわ経営塾開講 平成18年度 自社経営の課題の把握と戦略的な経営計画の策定及び実践のためのノウハウを取得し、中小企業新事業活動促進法に基づく「経営革新計画」の承認取得を目指す内容として実施。 平成25年度 経営革新計画の再取得のための短期集中個別相談を開始。 平成27年度 受講生のモチベーション向上のため、0B講演と交流会を導入。 令和元年度 第1回の講座を体験講座にて実施。						
必要性	企業経営者の経営課題の把握とビジネスプラン策定能力、マネジメント能力の向上を図り、区内中小企業の経営基盤と競争力強化を支援すると同時に、企業間連携の促進を図り、将来の区内産業界を担う人材育成を図る上からも必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 講師の選定等について、独立行政法人中小企業基盤整備機構（17年6月に業務連携の覚書を交わす）の支援を受け、また、カリキュラムの策定、実施方法等については、講師陣と連携して実施。						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 経営革新計画新規承認企業	1	1	1	3	3	
	② その他の事業計画策定企業				7	7	
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
重点的に推進	重点的に推進	区内企業の経営革新に向けた計画等の策定を通じて、区内企業の経営基盤の強化と区の産業界を担う人材の育成、人脈の形成を図ることは重要であるため、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		1,611	2,532	1,703	1,703	1,703	1,703	1,706
決算額(2年度は見込み)		1,306	2,270	1,674	1,207	1,332	1,506	1,706
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	受講者数	6	10	11	7	10	9	10
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	講師謝礼	857	報償費	講師謝礼	13	報償費	講師謝礼	104
需要費	講師賄い等	4	需用費	講師賄い等	4	需用費	講師賄い等	38
役務費	講師謝礼	472	役務費	講師謝礼	1,489	役務費	講師謝礼	1,564

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	2,413	3,137		724	地方税	0
物件費	475	1,493	1,018	国庫支出金	0	0	0	
維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	857	13	▲ 844	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
賞与・退職給与引当金繰入額	624	186	▲ 438	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 4,369	▲ 4,829	▲ 460	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	4,369	4,829	460	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 4,369	▲ 4,829	▲ 460	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 4,369	▲ 4,829	▲ 460	

備考
・令和元年度は、講師3名への支払いについて、支払先が個人名義から法人名義へと変更となったため、物件費(役務費)が増加し、補助費等(報償費)減少。

問題点・課題
・参加企業が、自社の経営課題を見つめ直し経営戦略を策定することができるよう、一層魅力的なカリキュラム等の設定、講義・演習内容を行うことが必要となる。
・参加企業を集めるため、企業経営の革新(最終的には経営革新計画認証取得)に加え、様々な経営課題に応じた事業計画の策定に対する関心が高まるよう、効果的な周知を図ることが重要である。
・事業実施から参加企業も約120社を数え、経営革新計画認証取得企業も増加していることから、計画の着実な実施や参加企業間の連携強化を促進するため、参加企業への継続的な支援が必要となる。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	経営革新計画取得企業を増やすとともに、経営課題解決のために自社の経営計画を策定し行動する企業の支援を行う。	経営革新に意欲的な企業の参加を促した結果、令和元年度は、経営革新計画の取得を目指す企業が例年より多かった。	令和元年度と同様、第1回目の講義を体験講座にすることで、入塾に対する心理的ハードルを下げ入塾者を増やし支援する。
②			
③			
他区の実況	(実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区) 足立区、墨田区が類似事業を実施		
議会議決(要旨)			

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-15		戦略プラン		●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	日暮里経営セミナー事業		部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
			担当者名	島田	内線	459		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）		01-06-03	日暮里経営セミナー事業					
事務事業の種類		○新規事業（○2年度 ○元年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 ○令和 18年度		根拠					
終期設定	●有 ○無		令和3年度		法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分		●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	05	活力ある地域経済づくり					
	施策	03	企業経営革新の支援					
目的	中小企業支援の専門機関である独立行政法人中小企業基盤整備機構のセミナーを、区内の同一会場で定期的に開催することにより、区内企業経営等に関する有用なセミナー参加を促進し、経営基盤の強化を図る。							
対象者等	区内外の中小企業等							
内容	<p>独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）との連携の一環として、中小機構のセミナーを、区内で定期的に共同開催する。区は会場使用料を負担し、中小機構は、謝礼等の他の経費を負担する。</p> <p>【日暮里経営セミナー（令和元年度実績）】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 時期 年4回実施（7月、9月、11月、1月）午後6時30分～午後8時30分 □ 会場 ホテルラングウッド（日暮里）他 □ テーマ 7月17日（水）「生産性向上」、9月18日（水）中止、11月13日（水）「人材獲得・育成」、1月22日（水）「自社製品の開発」 □ 定員 50名程度 □ 工場見学会 10月25日（金）「辞めない会社づくり、製品製造技術を学ぶ」 							
経過	平成17年6月	中小機構と業務連携の覚書を手交						
	17年度	あらかわ経営塾の運営支援、産業振興懇談会への参画等の各事業での連携強化						
	18年度	あらかわ経営塾、中小機構サテライト事業等の提携事業の実施						
	23年度	工場見学会を開始						
	27年度	荒川区・中小機構業務連携10周年記念講演の実施						
必要性	区内企業が、身近な場で専門機関の事業を有効活用できるものであり、必要性は高い。							
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	セミナー参加企業数（人）	70	135	65	80	140	年間受講者数(工場見学会を含む)
	②	満足度（%）	100	99.1	93.4	95	100	アンケート結果[満足度]
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
推進	推進	企業経営に必要な各種情報をタイムリーに提供し、かつ、区内企業にとって国の専門支援機関を身近なものとする契機となる事業であるため、推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		502	424	502	502	404	341	410
決算額 (2年度は見込み)		275	203	295	294	295	257	410
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
セミナー参加企業数		114	119	88	65	120	59	70
工場見学会		10	11	10	5	15	6	10
予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
需用費	消耗品等	5	需用費	消耗品等	4	需用費	消耗品等	14
役務費	セミナー用看板作成	24	役務費	セミナー用看板作成	24	役務費	セミナー用看板作成	25
使用料等	会場使用料	266	使用料等	会場使用料	230	使用料等	会場使用料	371

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
行政費用	給与関係費	2,413	2,241	▲ 172	地方税	0	0	0
	物件費	295	257	▲ 38	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給付引当金繰入額	624	133	▲ 491	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,332	▲ 2,631	701
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	3,332	2,631	▲ 701	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,332	▲ 2,631	701
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,332	▲ 2,631	701	

備考 中小機構が講師費用、荒川区が会場使用料を負担しており、年度による大きな金額の変動はないが、令和元年度第2回は依頼していた講師が急遽登壇できなくなり、中止としたため、物件費(使用料)が減。

問題点・課題
・参加企業のアンケート結果では、実施内容について概ね高評価を得ている。さらに多くの企業が参加するよう、荒川区モノづくりセンサスや中小企業白書等から企業ニーズを的確に把握した上でのテーマ選定が重要となる。また、中小機構や周辺区と連携して広く事業の周知を行う必要がある。
・今後も引き続き、中小機構と企画案を調整し、工場見学会の内容をさらに充実したものとする。

問題点・課題の改善策		
①	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価
①	魅力的なカリキュラムを構築し、周知方法を工夫することで、例年以上に募集を行い、受講者にとって実りある講義を提供する。	参加者アンケートの結果は例年同様良好であり、企業ニーズに合致したテーマ選定が行えている。
②		
③		
他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)	
議会議決(要旨)		

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-16	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	高度特定分野専門家派遣事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	砂川	内線	457		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-04	高度特定分野専門家派遣事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 22年度	根拠	荒川区高度特定分野専門家派遣事業実施要綱				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	区内中小企業が抱える様々な技術的・経営的課題のうち、企業相談員・産学連携推進員・創業支援相談員等が単独では対応が困難な、高度で専門的知識を必要とする課題を迅速に解決するため、各分野の専門家を派遣し、問題解決に取り組む。それにより、区内産業の更なる発展を図ることを目的とする。						
対象者等	区内中小企業者等						
内容	1 派遣対応分野 生産技術、技術開発、企業会計、税務、事業継承、知的財産権、IT関連、製品開発（デザイン）、マーケティング、エネルギー管理、許認可申請、人事・労務、ビジネス支援（販路開拓／商業・サービス業支援）等 2 派遣時間 1企業、1団体又は創業を予定している個人につき、同一年度内に10時間まで（荒川区ビジネスプランコンテスト受賞者においては受賞案件に限り加算有） 3 利用者負担 無料※但し、専門家の派遣先が特別区域外の場合、支援企業が実費相当の交通費を負担する。						
経過	平成21年度 「平成21年度モノづくりクラスター形成促進事業」に係る調査委託において専門家登録派遣制度を試行実施 平成22年度 高度特定分野専門家派遣事業開始 平成25年度 登録専門家の増員（24年度12名→34名） 平成26年度 支援対象者拡大（創業予定の個人） 派遣対応分野に許認可申請、地域活性化を追加 登録専門家増員 11名 減員 2名（25年度34名→43名） 平成27年度 登録専門家減員 1名（26年度43名→42名） 平成28年度 登録専門家増員 5名（27年度42名→47名） 平成29年度 登録専門家増員 8名（28年度47名→55名） 平成30年度 登録専門員増員 2名（29年度55名→57名） 平成31年度 登録専門員増員 7名（30年度57名→64名）						
必要性	企業支援・創業支援においては多岐に渡る分野で専門的な支援が必要となるケースがある。企業相談員・産学連携推進員・創業支援相談員が「かかりつけ医」として「専門医」たる高度特定分野専門家を活用することで幅広く、かつ専門的な支援が可能となる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値（8年度）	
	① 派遣実施時間	219	227	232	320	350	
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
推進	推進	専門知識を有する専門家の迅速かつ継続的な派遣支援は、区内産業の発展に必要な事業であるため、推進する。					

予算・決算額等の推移	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
予算額	1,863	3,180	3,450	2,530	3,111	3,991	3,680	
決算額(2年度は見込み)	1,863	1,725	1,760	2,519	2,738	2,668	3,680	
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	派遣時間	162	150	153	219	227	232	320

予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	専門家謝礼	2,519	報償費	専門家謝礼	2,668	報償費	専門家謝礼	3,680
役務費	専門家謝礼	92	その他の委託料	専門家紹介冊子作成委託	0			
その他の委託料	専門家紹介冊子作成委託	128						

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	1,930	1,344		▲ 586	地方税	0
物件費	220	0	▲ 220	国庫支出金	0	0	0	
維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	2,519	2,668	149	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
賞与・退職給与引当金繰入額	499	80	▲ 419	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 5,168	▲ 4,092	1,076	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	5,168	4,092	▲ 1,076	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 5,168	▲ 4,092	1,076	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 5,168	▲ 4,092	1,076	

備考 専門家への謝金が主な支出である。

問題点・課題
 ・専門的な支援を必要としている区内企業等の相談ニーズを把握する必要がある。
 ・ニーズに応じて新たに配置した専門家(販路開拓・商業・サービス分野)を活用する。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	経営支援課で新たに販路開拓分野、産業振興で商業・サービス業分野の支援をスタートさせる。	新分野である販路開拓分野や、商業・サービス業分野の支援を行うことが出来た。	今後も様々な企業ニーズが出てくるのが予想される為、ニーズに応えられる専門家を配置していく。
②	最適な専門家を派遣する為、企業相談員等とともに適切にニーズ把握を行う。	企業のニーズを適切に把握し、ニーズに適した専門家を派遣している。	引き続き、企業ニーズの適切な把握に努めていく。
③	引き続きホームページやメールマガジン等PRツールを活用するとともにセミナー等の場で積極的に周知を行っていく	直接問い合わせをいただくことも多く、区内企業への周知活動が出来ている。	引き続き、ホームページやメールマガジン等PR手法を活用するとともにセミナー等の場で積極的に周知を行っていく。

他区の実況
 (実施 21 区 未実施 1 区 不明 0 区)
 ○実施区のうち・独自に専門家派遣事業を展開する区 13区(中央・新宿・墨田・江東・品川・大田・世田谷・杉並・板橋・練馬・葛飾・中野・江戸川)・都公社が実施する専門家派遣事業の補助を行う区 8区(千代田・港・文京・豊島・台東・北・足立・目黒)・未実施(渋谷)

況議(要旨) 会質問 状

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-17	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	経営革新等支援事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	大野	内線	459		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-06-01	経営革新等支援事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業						
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 6年度	根拠	荒川区経営革新等支援事業補助金交付要綱				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	産業を取り巻く環境が激変する中、経営革新等に資する取組みに要する経費の一部を補助することにより、区内企業の付加価値を高め、販路拡大、経営基盤や競争力等の強化に寄与し、もって、区内産業の振興を図る。						
対象者等	区内事業者（ただし、新製品開発…区内製造業者、催事出展補助…荒川マイスター他）						
内容	<p>【主な補助金等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新製品・新技術開発…[補助率]2分の1（※3分の2）[限度額]200万円（※300万円）[補助期間]2年間 ○産業財産権取得補助…[補助率]2分の1（※3分の2）[限度額]15万円（※25万円） ○ISO認証取得補助…[補助率]4分の1 [限度額]50万円 [補助経費]ISO9000(品質管理)、14000(環境)、27000(情報セキュリティ)、22301(BCP)、50001(エネルギー)の取得経費 [補助期間] 2年間 ○見本市等出展補助…[補助率]2分の1（※3分の2）[補助限度額]30万円（※45万円）*ただし、平成25年度を基準年とし、国内出展の2回目以降は限度額を20万とする。 ○セミナー等受講料補助…[補助率]2分の1 [補助限度額]3万円（自社内等研修会の開催10万円） <p>※ 経営革新計画の認定を受けた場合の特例 ○機械要素技術展への共同出展…(平成29年度から「販路開拓支援事業」へ移行)</p>						
経過	<p>平成6年度 新製品・新技術開発支援事業補助事業（同要綱制定）実施</p> <p>平成8年度 見本市等出展補助事業（同要綱制定）実施</p> <p>平成9年度 工業所有権取得支援事業補助事業（同要綱制定）実施</p> <p>平成14年度 ISO認証取得支援事業補助事業（同要綱制定）実施</p> <p>平成17年度 経営革新等支援事業に統一（他補助事業を含め統一要綱とする）</p> <p>平成19年度 マーケティング調査補助開始（22年度で終了）</p> <p>平成22年度 セミナー等受講料、催事出展料補助開始</p> <p>平成23年度 ISO認証取得支援に、ISO50000を追加</p> <p>平成25年度 ISO認証取得支援に、ISO22301を追加</p> <p>見本市等出展補助改訂：当年度を基準とし、国内出展2回目以降の限度額を20万円に変更</p> <p>平成28年度 機械要素技術展共同出展 開始（平成29年度から「販路開拓支援事業」へ移行）</p>						
必要性	区内中小企業の新製品・新技術開発や新分野進出、産業財産権保護による経営戦略を支援する事業であり、区内中小企業の競争力強化のためには不可欠な施策として必要性は高い。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 新製品・新技術開発支援事業の技術面等の審査について、試験研究機関（都立産業技術研究センター）に委託し、補助金交付決定判断の参考としている。						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 新製品・技術の開発に対する取り組み意欲(%)	45.1	45.1	45.1	45.1	50.0	29年度実態調査 ※次回は令和3年度
	② 知的財産に関する専門家への相談状況(%)	31.9	31.9	31.9	31.9	35.0	29年度実態調査 ※次回は令和3年度
③ 新たな販路開拓に対する取り組み意欲(%)	45.7	45.7	45.7	45.7	50.0	29年度実態調査 ※次回は令和3年度	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
重点的に推進	重点的に推進	当該補助事業を通じて、区内企業の経営基盤の強化と経営革新が図られることが期待され、区内産業活性化を目指すためには極めて重要であるため、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		26,232	37,570	41,496	32,789	33,071	33,232	33,013
決算額（2年度は見込み）		21,314	29,350	32,059	18,861	24,267	29,129	33,013
実績の推移	事項名（2年度は見込み）	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	新製品開発補助件数	8	10	9	8	7	8	7
	産業財産権取得補助件数	10	17	7	17	13	20	15
	I S O補助件数	1	3	3	2	4	1	2
	見本市補助件数	69	51	53	60	69	58	60
予算・決算の内訳								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	技術審査委託料	41	委託料	技術審査委託料	73	委託料	技術審査委託料	440
負担金補助等	補助金	24,226	負担金補助等	補助金	29,056	負担金補助等	補助金	32,573

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	2,413	4,033		1,620	地方税	0
行政費用	物件費	41	73	32	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	24,226	29,056	4,830	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	624	240	▲ 384	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 27,304	▲ 33,402	▲ 6,098
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	27,304	33,402	6,098	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 27,304	▲ 33,402	▲ 6,098
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 27,304	▲ 33,402	▲ 6,098	

備考 補助費等の増額は、新製品開発補助の1件当たり補助額の増によるものである。

問題点・課題
 ・経済環境や新興国を中心とした海外企業との競争激化などで製造業を中心とした区内中小企業は厳しい経営状況下にある。その中で、時代の状況及び企業のニーズに対応した補助制度にすることにより区内企業を支援することは、非常に重要である。
 ・経営環境に応じ、当該補助対象を改正しながら、より多くの企業が参加できるように、当該制度の周知を行い、制度の利用促進を図ることが必要である。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	事業者の経営革新をさらに後押しできるように、申請要件の最適化を実施する。	産業財産権の申請について、申請時期に係る要件の緩和等を行った。	事業者の経営革新をさらに後押しできるように、記入要領の整理、申請要件の緩和等の検討を行っている。
②			
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

況議(要旨) 平成26年度予特 セミナー研修受講補助の周知の方法について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-18	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	近隣区モノづくり連携事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎			
		担当者名	大野	内線	459			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-06-04	近隣区モノづくり連携事業						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 17 年度		根拠	東京T A S K 推進に関する協定書（4区協定）				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		令和3年 年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内		<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ 産業革新都市						
	政策	05 活力ある地域経済づくり						
	施策	02 創業・新事業創出の支援						
目的	台東、荒川、足立、葛飾の4区連携による地域の特性を活かした地域産業の創出と技術、人材等の地域資源を活用した産業の活性化を図る。							
対象者等	荒川区、台東区、葛飾区、足立区の4区内の企業							
内容	平成17年度に学識経験者、産業団体等、都・区関係課長により推進委員会を設置。T A S Kプロジェクト基本構想、プロジェクト実施計画（平成17～19年度）を策定し、4区内のものづくり企業支援事業として開始。 ○17年度：「4区合同産業人会議」の開催（8月・2月）、「伝統的工芸品チャレンジ大賞」の実施 T A S Kホームページの開設、メールマガジンの配信を実施 ○18年度：「ものづくり大賞」、「下町のスグレもの応援プロジェクト」を開始 東京藝術大学とT A S K地域内の企業との「交流会」を開始（21年度まで） ○21年度：「展示販売支援プロジェクト」を開始 ○25年度：「T A S K交流会」、「T A S K工場見学ツアー」を開始 ○27年度：「自主交流グループ活動支援事業」を開始							
経過	平成16年6月 4区により都にプロジェクト提案案、検討委員会開催（5回） 平成17年2月 T A S Kプロジェクト構想策定 平成20年4月 実施期間の3年間延長（22年度）、以降、2年間の延長を継続している 平成21年4月 足立区が参加し、5区連携活性化事業に拡大 令和2年4月 新たな連携の枠組みを構築し、東京T A S Kとしてリニューアル							
必要性	区外企業等との交流促進は、新製品・新技術開発に取り組む新たな契機となるものであり、必要性は高い。							
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値（8年度）
	①	（荒川区担当）T A S K製品開発事業参加企業の満足度（%）	93.1	83.3	92.7	92.7	90.0	参加者アンケートで「意義があった」と回答した割合。
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度	3年度							
推進	推進	区を越えた企業間交流による新製品や新技術開発の端緒となる事業であり重要であることから、推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
決算額(2年度は見込み)		1,791	1,884	1,921	1,882	1,887	1,616	2,000
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	TASKホームページ開設・メルマガ配信	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
	下町のスグレもの(製品提供企業数)	-	-	-	-	-	-	-
	TASK交流会(参加者数)	82	83	32	15	45	53	42
TAS Kものづくり大賞(応募点数)		106	101	81	54	61	46	40
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
負担金補助等	負担金	1,887	負担金補助等	負担金	1,616	負担金補助等	負担金	2,000

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	2,895	3,585		690	地方税	0
物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0	
維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	1,887	1,616	▲ 271	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
賞与・退職給与引当金繰入額	748	213	▲ 535	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 5,530	▲ 5,414	116	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	5,530	5,414	▲ 116	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 5,530	▲ 5,414	116	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 5,530	▲ 5,414	116	

備考 4区連携プロジェクトの負担金が主な経費である。

問題点・課題 「TASKものづくり大賞」と「展示販売支援プロジェクト」が事業として定着し、平成25年度からは新たな展開として「TASK交流会」と「工場見学ツアー」を開始。「TASK交流会」については、より実践的なデザイナーによる製品開発支援を行っている。しかし、TASKプロジェクト全体として、参加企業が固定化する傾向があることから、各区がPR方法や事業内容を工夫し、新規企業の参加を幅広く促す必要がある。荒川区においては、企業訪問の履歴等から新製品開発により意欲のある事業者を特定し、積極的に案内していく。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	事業者とデザイナーのより効果的なマッチング方法を検討する。	事業者の取組内容・試作品等とデザイナーの得意分野・支援意向を勘案してマッチングを行った。	継続して、デザイナーの得意分野や熱意が生かせるマッチングを行うことで、事業者の課題解決につなげる。
②	デザイン相談会では、1事業者の相談時間を十分に取れるよう実施形態を検討する。	デザイナーと事業者がデザイン課題に十分に取組めるよう、1時間程度の相談時間をとるようにした。	相談事業者に担当デザイナーを決める等、事業者のデザイン課題の解決に努める。
③			

他区の実況 (実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区)
KICC：板橋区、北区(民間事業者による自主運営に移行)
東京TASK：台東区、荒川区、足立区、葛飾区

況 議 会 質 問 状 況 (要 旨)

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-19		戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	荒川区新製品・新技術大賞		部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎			
			担当者名	小嶋	内線	459			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-06-06	荒川区新製品・新技術大賞							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 24 年度	根拠	荒川区新製品・新技術大賞実施要綱						
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3 年度	法令等						
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市						
	政策	05	活力ある地域経済づくり						
	施策	02	創業・新事業創出の支援						
目的	区内中小企業が開発した新製品・新技術のうち、優秀と認めるものを「荒川区新製品・新技術大賞」として表彰することにより、区内中小企業による新製品等の開発気運の醸成を図ることを通じて、「モノづくりの街あらかわ」の振興へ繋げることを目的とする								
対象者等	区内中小企業（またはグループ）								
内容	<p>○令和2年度の実施内容</p> <p>1 表彰対象：区内中小企業が開発した新技術・新製品（市場販売・発表して3年以内）</p> <p>2 参加対象：区内に本社を有する中小企業（又は中小企業グループ）</p> <p>審査：有識者で構成する審査委員会において審査を行う。 ※特別審査委員長 小宮山 宏氏（三菱総合研究所理事長、東京大学第28代総長） ・審査委員会より入賞候補を選定し、最終決定は、委員会の結果を踏まえ区長が行う。</p> <p>3 受賞内容：受賞企業には、表彰状及び賞金を授与する。 ・荒川区長賞（最優秀賞） 賞金100万円 ・優秀賞 賞金 30万円×3件 ・入賞 賞金 5万円×3件</p> <p>4 受賞企業のフォロー：受賞企業の販路拡大に向け、受賞内容を紹介したパンフレットを作成するほか、関係機関との連携による販路拡大支援などのサポートを行う。</p>								
経過	<p>平成24年度 事業開始（隔年実施）</p> <p>平成26年度 第2回荒川区新製品・新技術大賞</p> <p>平成28年度 第3回荒川区新製品・新技術大賞</p> <p>平成30年度 第4回荒川区新製品・新技術大賞</p> <p>令和2年度 第5回荒川区新製品・新技術大賞</p>								
必要性	本事業は、区内の産業振興に寄与することと考えられ、必要性は高い。								
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）								
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)		
	①	新製品・技術の開発に対する取り組み意欲（%）		45.1	45.1	45.1	45.1	48.0	荒川区モノづくりセンサス（平成29年度）
	②								
③									
事務事業の分類			分類についての説明・意見等						
2年度		3年度							
重点的に推進	休止・完了		本事業は、新製品の開発機運を醸成するだけでなく、様々な経営革新を進めていくうえで、有効であることから、今後も適切に制度設計をしながら、隔年にて重点的に推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		3,018	-	3,258	-	3,358	-	3,401
決算額 (2年度は見込み)		2,588	-	2,673	-	2,684	-	3,401
実績の推移	事項名 (2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	応募件数	19		19		19		20

予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
報償費	審査委員謝礼 (個人払い)	125		実施しない		報償費	審査委員謝礼 (個人払い)	246
	賞賜金	2,100					賞賜金	2,150
需用費	飲料賄い	2				需用費	印刷製本費等	87
	消耗品費	4				役務費	審査委員謝礼 (法人払い)	123
	印刷製本費	56					表彰式看板設置	6
役務費	審査委員謝礼 (法人払い)	62				委託料	パンフレット等作成費	653
委託料	パンフレット等作成費	335				使用料及び賃借料	表彰式会場使用料	136

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	4,343	0		▲ 4,343	地方税	0
	物件費	459		▲ 459	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0		0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0		0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	2,225		▲ 2,225	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0		0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0		0	行政収入合計 (a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,122	0	▲ 1,122	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	▲ 8,149	0	8,149
	その他行政費用	0		0	金融収支差額 (d)	0	0	0
	行政費用合計 (b)	8,149	0	▲ 8,149	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	▲ 8,149	0	8,149
	特別費用 (g)	0		0	特別収入 (f)	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	▲ 8,149	0	8,149

令和元年度は実施していない。

問題点・課題
令和2年度に実施する第5回も、前回と同規模の応募者数となるよう、金融機関等の関係諸機関の協力を得ながら積極的にPRを行っていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	大規模展示会にてパネルやパンフレットを設置するなど、受賞企業・製品の積極的にPRする。	大規模展示会にてパネルやパンフレットを設置するなど、受賞企業・製品を積極的にPRした。	金融機関等の関係諸機関の協力を得ながら積極的なPRに努め、多くの企業の申込を促す。
②			
③			

他区の実況	(実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区)
状況	板橋区、大田区

議会議決(要旨)	
----------	--

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-20	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事			
事務事業名	企業情報化支援事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎				
		担当者名	鈴木	内線	457				
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-07-01	企業情報化支援事業							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	12年度	根拠	荒川区経営革新等支援事業補助金交付要綱					
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等	荒川区高度特定分野専門家派遣事業実施要綱					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内	<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市						
	政策	05	活力ある地域経済づくり						
	施策	03	企業経営革新の支援						
目的	インターネット等による情報発信や商取引が急速に進展している中、企業活動にとってもICTの活用は不可欠となっている。このため、区内事業所の情報化への取り組みを支援し、産業活動の活性化を図ることを目的とする。								
対象者等	区内事業者								
内容	(1) 事業者向けICT活用セミナーの開催 区内中小企業を対象に、自社ホームページ等をマーケティングや経営基盤強化に活用する方法をレクチャーする。 (2) 事業所向け情報セキュリティセミナーの開催 区内中小企業を対象に、企業情報や個人情報に関するセキュリティ対策の方法をレクチャーする。 (3) PR動画製作補助事業（経営革新等支援事業補助金） 区内企業が販路拡大等のため、動画サイトやHPで放映する動画を製作する場合、製作費用の1/2（限度額10万円）を補助する。								
経過	平成12年度 企業情報化助成事業補助金交付要綱制定（12年6月～17年3月） 平成16年度 NSOITコーディネータ派遣事業を開始 平成17年度 荒川区経営革新等支援事業補助金交付要綱を制定し、IT講習会への参加費助成を開始 荒川区産業団体IT化助成事業補助金交付要綱を制定し、自主的に開催するIT講習会への助成を開始 平成20年度 企業IT推進員配置 平成22年度 ホームページ開設補助及びIT講習会への参加費補助（セミナー・研修受講支援事業補助金交付要綱にて対応）事業開始 平成23年度 IT講習会開催経費への補助を開始（セミナー・研修受講支援事業補助金交付要綱に統合） 平成25年度 PR動画製作補助を開始 ※ ホームページ開設補助は24年度を以って終了 平成30年度 区内企業を対象に、企業情報や個人情報を守るためのセキュリティセミナーを開始								
必要性	企業活動のICT化は、現在の商取引に欠かせないものであり、これまで積極的に関連施策を推進してきたところである。今後も社会経済情勢の変化に対応して、より支援効果の高いICT活用支援策を検討していく必要がある。								
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） ICTを活用した経営活動に知見のあるセミナー運営事業者に委託。								
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明		
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)	
	①	集合ICT講座・ICT活用セミナー（人：1回平均）		13	13	15	15	15	
	②	PR動画製作補助事業（件）		9	3	4	10	10	
③									
事務事業の分類			分類についての説明・意見等						
2年度		3年度							
推進		推進		ICTを活用した生産管理等は業績向上に不可欠であり、ICTに関する経営知識等の提供は不可欠である。ICTによる商取引が急速に進む社会経済情勢に合わせ、セキュリティを含めた周知啓発を推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		1,868	1,868	1,868	2,086	2,254	2,276	2,283
決算額(2年度は見込み)		1,343	1,044	1,241	1,614	1,377	1,480	2,283
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	集合ICT講座・ICT活用セミナー(件)	7	7	6	7	7	7	7
	サイバーセキュリティセミナー参加者(人)	—	—	—	—	34	21	30
	PR動画製作補助(件)	6	3	6	9	3	4	10
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	講師謝礼	29	報償費	講師謝礼	29	報償費	講師謝礼	69
需用費	消耗品等	8	需用費	消耗品等	8	需用費	消耗品等	60
委託料	IT活用セミナー業務委託	950	委託料	IT活用セミナー業務委託	990	委託料	IT活用セミナー業務委託	1,001
委託料	セキュリティ対策普及啓発グッズ	180	委託料	セキュリティ対策普及啓発グッズ	100	委託料	セキュリティ対策普及啓発グッズ	153
負担金補助等	PR動画作成補助	210	負担金補助等	PR動画作成補助	353	負担金補助等	PR動画作成補助	1,000

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	1,930	1,344		▲ 586	地方税	0
物件費	1,138	1,098	▲ 40	国庫支出金	0	0	0	
維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	239	382	143	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
賞与・退職給与引当金繰入額	499	80	▲ 419	行政収支差額(a)-(b)-(c)	▲ 3,806	▲ 2,904	902	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	3,806	2,904	▲ 902	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,806	▲ 2,904	902	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,806	▲ 2,904	902	

備考
・物件費(ICT活用セミナー業務委託)や区内企業のPR動画製作を支援するための補助費等が主な経費である。
・元年度の補助費の増は、PR動画制作補助金の実績増による。

問題点・課題
(1)近年増加しているサイバー攻撃等に対する脅威やセキュリティ対策を周知するためのセミナー等の開催が必要。
(2)PR動画製作補助の利用者増を更に図るため、制度周知を積極的に推進することが必要。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	事業者のマーケティング力の向上に資する内容のセミナーを実施する。	「マーケティングからはじめるWebサイト改善セミナー」を開催し、マーケティング目線のWebサイト作成の支援を実施した。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインセミナーを開催する。
②	ニーズに沿ったセミナーを開催し、区内事業者がICTを活用して経営力アップを図るための支援を行う。	近年、区内事業者からのニーズも増加傾向にある動画制作のノウハウについてのセミナーを開催した。	引き続き、区内事業者のニーズを把握した上で、販売力強化に繋げるための効果的なセミナー等を開催する。
③	警察署や東京商工会議所荒川支部等と連携を図りながら、セキュリティの普及啓発を実施する。	警察署と東京商工会議所荒川支部と共同し、サイバーセキュリティ攻撃に関する現状と対応策等を紹介するセミナーを開催した。	引き続き、近年増加傾向にあるサイバー攻撃の対応策の周知を継続する。

他区の実況
(実施 1 区 未実施 21 区 不明 0 区)
※品川区(中小企業及び情報通信業限定。上限20万円、補助率2/3)

議会議決(要旨)

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード		06-02-23		戦略プラン		●協働 ○業務 ○財務 ○人事		
事務事業名		荒川マイスター表彰事業		部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎	
				担当者名	島田	内線	459	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）		01-10-01 荒川マイスター事業						
事務事業の種類		○新規事業（○2年度 ○元年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度		○昭和 ●平成 ○令和 6年度		根拠		荒川マイスター表彰要綱		
終期設定		●有 ○無 令和3年度		法令等				
実施基準		○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分		●計画 ○非計画		
行政評価事業体系		分野		Ⅲ 産業革新都市				
		政策		05 活力ある地域経済づくり				
		施策		03 企業経営革新の支援				
目的		区内において永く同一職業に従事し高い技術と卓越した技能を習得し、それらの技術をもって後進の指導、育成に力を注いでいる者を表彰し、荒川区の産業を支える技術・技能の継承並びに後継者育成を図る。						
対象者等		区内在勤で同一職業に25年以上従事している45歳以上のもので、高い技術と卓越した技能を持ち、後進の指導・育成に積極的な者						
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・対象資格を満たす者で自薦・他薦による応募者を候補者として募集し、選考審査会を経て区長が決定。 ・表彰者には賞状及び記念品を授与するほか、表彰パネルを作成し伝統技術展等で掲示しPR。 ・平成20年4月から本庁舎1階の展示コーナーに荒川ブランドとして、マイスター製品を展示し、区内外からの区役所来訪者に荒川マイスター制度とマイスター受賞者及び製品を紹介。 [募集] 6月中旬区報で募集、締切 8月末、職員による取材9月中旬、選考審査会 9月下旬 [表彰式] 10月下旬 [受賞者発表] 区報、あらかわ産業Navに掲載						
経過		平成6年度 荒川区技能功労者表彰制度として発足 平成7年度 J・荒川マイスター倶楽部を結成（荒川マイスター表彰者で結成した任意団体） 平成9年度 荒川マイスター制度に改称 平成12年度 表彰式後の懇親会を休止（※平成13年度～表彰式を、事業者功労者表彰と合同で開催） 平成21年度 ・マイスター認定基準の緩和：①対象年齢の引き下げ（50歳⇒45歳）、②在住要件の廃止、③現代の名工等受賞者に対する年齢要件の撤廃、マイスターPR・保存映像の作成 平成25年度 荒川マイスター20周年記念事業の実施（記念誌編さん、記念式典・祝賀会開催） 平成27年度 J・荒川マイスター倶楽部20周年記念事業の実施（記念式典・祝賀会開催） 荒川マイスター認定基準の追加：①区内在勤者の区内勤続年数（通算概ね10年以上） 平成29年度 制度発足25周年目（平成30年）を記念し、感謝状と記念品（バッチ）を授与 平成30年度 マイスター認定基準の緩和（従事年数の引き下げ（30年⇒25年））						
必要性		技術・技能の継承、後継者育成に向けた、職人のモチベーション向上の観点から必要性は高い。						
実施方法		（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	① メディア出演回数（回）		2	3	3	4		10
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
推進		推進		高度な技術・技能を有する職人のモチベーション向上と、技術・技能の向上、承継を図るもので、「モノづくりの街あらかわ」のPRや区内産業の活性化に資するため、推進する。				

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		1,668	1,782	1,680	1,689	1,871	1,689	1,992
決算額(2年度は見込み)		1,278	1,559	1,306	1,456	1,355	532	1,992
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名(2年度は見込み)								
表彰者数(人)		4	2	2	2	1	1	2
マイスター累計(人)		71	73	75	77	78	79	81
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	選考委員謝礼	21	報償費	選考委員謝礼	41	報償費	選考委員謝礼	61
需用費	消耗品、記念品等	140	需用費	消耗品、記念品等	193	需用費	消耗品、記念品等	379
委託料	PR動画作成委託等	1,192	役務費	マイスター倶楽部25周年記念式典看板取付	6	委託料	PR動画製作委託等	1,546
使用料等	会場使用料	3	委託料	PR動画製作委託等	221	使用料等	会場使用料	6
			使用料等	会場使用料	72			

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
	給与関係費	1,930	1,793	▲ 137	地方税	0	0	0
	物件費	1,335	492	▲ 843	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	21	41	20	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	499	107	▲ 392	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,785	▲ 2,433	1,352
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	3,785	2,433	▲ 1,352	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,785	▲ 2,433	1,352
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,785	▲ 2,433	1,352

備考 令和元年度は伝統技術展の会場が一時的に変更となった関係で、生涯学習課と相互に負担していた業務委託費(ブースの設営)の当課負担分無くなったため、物件費が減少した。

問題点・課題
・IT技術の進展により、ものづくり産業に携わる若年層の減少や、後継者不足が懸念されている。加えて荒川マイスター制度が25年以上経過し、被表彰者の中には既に現役を退いている方も少なくなく、新規のマイスターの発掘や当該制度の周知を従来以上に積極的に行う必要がある。
・荒川マイスターの優れた技術・技能、製品を広く区内外に発信し、技の伝承等に取り組んでいくことが重要である。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	新しくマイスターに認定された方や公的機関の実施する表彰等を受けた方など従来の方々を含めて積極的にPRに取り組む。	従来の方々を含め、新しくマイスターになった方等から情報収集を行うつつ、積極的にPRに努めた。	区の主催するイベントやセミナー等を中心にリーフレットを配置する等積極的なPRに努める。
②	組合や関係団体への周知を図るほか、区内を巡回する経営相談員等とも連携をし積極的に候補の発掘を行っていく。	組合等を始めた各種業界団体への周知、経営相談員等と連携し候補者の発掘に努めた。	引き続き、関係団体等への周知を図るほか、区内を巡回する経営相談員等と連携をし積極的に候補の発掘を行っていく。
③			

他区の実況 (実施 7 区 未実施 15 区 不明 0 区)
墨田区、江東区、葛飾区、文京区、新宿区、台東区、足立区

議会議事録(要旨)

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		—	733	495	195	195	6,183	6,183
決算額（2年度は見込み）		—	407	200	52	72	3,831	6,183
実績の推移	事項名（2年度は見込み）	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	セミナー受講者数	—	18	17	10	17	87	90
	訪問相談件数	—	—	—	—	—	19	30
予算・決算の内訳								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	72	報償費	講師謝礼	0	報償費	講師謝礼	52
需用費	消耗品等	0	需用費	消耗品等	0	需用費	消耗品等	10
			委託料	その他の委託料	3,831	委託料	その他の委託料	6,116
			使用料	賃借料等	0	使用料	賃借料等	5

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	2,895	1,793		▲ 1,102	地方税	0
	物件費	0	3,831	3,831	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	1,915	1,915
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	72	0	▲ 72	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	1,915	1,915
	賞与・退職給与引当金繰入額	748	107	▲ 641	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,715	▲ 3,816	▲ 101
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	3,715	5,731	2,016	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,715	▲ 3,816	▲ 101
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,715	▲ 3,816	▲ 101

備考 令和元年度は、事業承継の知見を有する事業者へ業務委託を実施したため、物件費が増加した。

問題点・課題
 ・経営者の高齢化や後継者不足等により、事業活動が黒字でも廃業を検討している事業者は少なくない。早期に事業承継に着手できるよう、セミナー等を通じて事業承継ニーズを喚起するとともに、訪問相談を積極的に実施し、円滑な事業承継や廃業を支援していく必要がある。
 ・事業承継は自治体の支援のみで完結する問題では無いため、金融機関等を始めとした各種支援機関と連携し課題の解決に取り組むことが重要である。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	事業承継のPR、訪問相談、セミナー及び地域連絡協議会の運営を委託事業として実施することにより、総合的な支援を行う。	事業承継のPRから実務まで一貫して委託することで、総合的な支援をワンストップで提供が可能となった。	強化月間でのPRポスターの作成等により、本事業を積極的にPRする等、令和元年度以上に事業の周知に注力する。
②	製造業等経営力向上支援事業補助金の事業承継に伴う設備投資における加算措置も積極的にPRし、相乗効果を高める。	委託業者と連携し、補助金の加算措置を含めた総合的な支援を行うことができた。	相乗効果のある制度を積極的にPRし、区内事業者の事業承継に取り組む機運を高める。
③			

他区の実況
 （実施 14 区 未実施 8 区 不明 0 区）
 中央区（セミナー）港区（セミナー）文京区（セミナー）台東区（助成※公益財団法人）墨田区（専門家支援）品川区（セミナー・訪問相談・後継者塾）大田区（人材育成）世田谷（窓口相談※公益財団法人）豊島区（セミナー）練馬区（セミナー）葛飾区（セミナー）江戸川区（セミナー※共催）

況議（要旨）
 H29年2月会議 区内企業の後継者育成・事業承継について
 H30年6月会議 区内企業の事業承継について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-25	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	生産性向上指導員派遣事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎			
		担当者名	砂川	内線	457			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-07	生産性向上指導員派遣事業						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 27 年度	根拠						
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3 年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	05	活力ある地域経済づくり					
	施策	03	企業経営革新の支援					
目的	生産性向上のためのカイゼンに関心の高い区内事業者に対し、専門指導員を派遣し、社員全員がカイゼンの種を見つける目を養い、生産性向上に向けた活動を定着させる。							
対象者等	生産性向上に関心のある区内事業者							
内容	<p><生産性向上指導員派遣事業の概要></p> <p>1 事業内容 生産性向上支援を希望する区内中小企業を公募し支援企業を決定して、生産性向上の専門指導員を無料で派遣する事業。</p> <p>2 謝礼額：1時間あたり、11,500円（交通費を含む）</p> <p>(1) 派遣時間：同一年度内で12回（月1回程度、1回2時間）を予定。</p> <p>(2) 派遣支援の流れ</p> <p>①指導員が企業に生産性向上のための相談内容について事前説明やヒアリングを行い、1年間の実施予定と工程表を作成する。</p> <p>②作成した予定表に沿って指導支援を実施する。</p>							
経過	<p>平成27年度 あらかわ7S推進事業開始</p> <p>【セミナー】27年度 7月22日、28年1月22日</p> <p>28年度 7月15日、29年1月26日 ※29年度30年度は未実施</p> <p>【スクール】第1期：27年10月～28年9月</p> <p>第2期：28年10月～29年9月</p> <p>第3期：29年10月～30年9月</p> <p>平成30年9月 第3期スクール成果発表会をもって事業を終了</p> <p>平成31年度 「生産性向上指導員派遣事業」としてリニューアル</p>							
必要性	生産性向上を目的とした現場カイゼンや社員教育に関心の高い区内事業者に対して、その知見を有する指導員を派遣し、支援を行う必要性は高い。							
実施方法	<input type="radio"/> (1直営) <input type="radio"/> (直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	指導員派遣企業数			3	3	3	
	②	セミナー参加者数			8	20	20	
③	7Sスクール終了企業数	3	3				※平成30年9月第3期スクールで事業終了	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
推進	推進	企業の生産性向上の推進を後押しする事業であるため、推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		—	1,100	1,846	1,846	762	897	897
決算額 (2年度は見込み)		—	700	1,158	1,068	426	621	897
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
指導員派遣企業数		—	—	—	—	—	3	3
セミナー開催回数		—	2	2	0	0	1	1
スクール開催回数		—	8	11	12	6	—	—
予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
報償費	講師謝礼	0	役務費	指導対価 (法人支払分)	621	役務費	指導対価 (法人支払分)	897
需用費	消耗品、食糧費	0						
役務費	講師対価 (法人支払分)、看板製作・設置	293						
使用料等	会場使用料	133						

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
	給与関係費	1,930	1,344	▲ 586	地方税	0	0	0
	物件費	426	621	195	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計 (a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	499	80	▲ 419	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	▲ 2,855	▲ 2,045	810
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額 (d)	0	0	0
	行政費用合計 (b)	2,855	2,045	▲ 810	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	▲ 2,855	▲ 2,045	810
	特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	▲ 2,855	▲ 2,045	810

備考 講師への謝礼が主な支出内容である。

問題点・課題 7Sセミナー及び7Sスクールは、27年10月(第1期)から30年9月(第3期)まで実施された。当初の事業目標は概ね達成できたことから事業終了とする。現場改善による生産性向上の重要性について区内企業へ周知を行うと共に、企業の積極的な取り組みを支援する。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	7S推進事業からリニューアルし、引き続き指導員を中心に参加企業の生産性向上に取り組む。	参加企業の生産性向上に向けて、指導員が3S等を中心に直接指導を行っている。	生産性向上に意欲的に取り組む企業を発掘し、指導員を中心に直接指導を行っていく。
②			
③			

他区の実況 (実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

議会議案要旨
状況

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-26	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	荒川区製造業等経営力向上支援事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	大野	内線	459		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-05	製造業等経営力向上支援事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業						
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 26 年度	根拠	荒川区製造業等経営力向上支援事業補助金交付要綱				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内	<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	景気回復期における区内中小企業の経営力強化を図るため、設備投資等に要する経費の一部を助成する。これにより、競争力の強化を通じて、区内産業の振興につなげる。						
対象者等	製造業等に属する中小企業者。ただし、小規模事業者設備更新補助については、従業員数が20名以下						
内容	①生産性向上設備投資補助（生産・販売活動等により収益を得るために必要な設備20万円以上） 【補助率4分の1】（※3分の1）【限度額】100万円（※300万円） ②女性活躍環境整備補助（女性の雇用継続や活躍等につながる環境整備20万円以上） 【補助率4分の1】（※3分の1）【限度額】100万円（※300万円） ③ICT導入補助（販売力強化につながるECサイト構築や総務システム構築等5万円以上） 【補助率4分の1】（※3分の1）【限度額】20万円（※60万円） ④BCP実践設備投資補助（事業継続に必要な設備等導入10万円以上） 【補助率4分の1】（※3分の1）【限度額】100万円（※300万円） ⑤小規模事業者設備更新補助（20万円以上） 【補助率4分の1】【限度額】70万円 ※ 経営革新計画の認定等を受けた場合の特例						
経過	平成26年度 事業開始（メニューは設備補助のみ） 平成27年度 事業拡充（3つのメニュー（女性活躍、ICT、集客力）を追加） ※「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）」の交付対象 平成28年度 事業拡充（事業承継、第二創業、経営革新計画承認企業等の「特例」を新設） ※「産業集積活性化支援事業費補助金」平成30年度まで交付対象（東京都補助） 令和元年度 労働生産性向上に資する設備投資を後押しするため、以下のように変更 ①事業名変更：「小規模事業者経営力向上支援事業」から「荒川区製造業等経営力向上支援事業」 ②対象者要件緩和、③補助メニューの再構成、④特例要件の変更 令和2年度 BCP実践設備投資を支援メニューに追加 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策設備投資等支援事業補助金設立（単年度のみ）						
必要性	区内産業を支える中小企業の生産性を向上させる設備投資促進を支援することにより、経営力の強化を図る事業であり、今後の成長発展につなげるため、必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） （1）申請受付：受付後に、中小企業診断士による経営指導等を実施。 （2）実績報告：現地確認を行った上で、補助金を支出する。						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① アンケートで「効果あり」との回答があった割合（%）	94.1	95.0	91.3	90.0	94.0	「効果あり」の回答数/アンケート回答数。小規模補助の実績
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
推進	推進	当該事業を通じて、区内産業を支えてきた中小企業の経営力の強化が図られることが期待されるため、推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額			74,000	124,000	124,152	122,908	93,471	93,494
決算額(2年度は見込み)		-	48,875	84,304	70,022	68,704	38,834	93,494
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名(2年度は見込み)								
設備補助		84	97	95	107	101	57	80
女性活躍整備補助			3	3	0	3	5	4
ICT販売力強化補助			3	2	4	3	0	4
集客力向上補助			4	8	5	4	-	
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	専門家謝礼	2,139	報償費	専門家謝礼	2,104	報償費	専門家謝礼	3,174
委託料	チラシ制作委託	94	委託料	チラシ制作委託	93	委託料	チラシ制作委託	320
負担金補助	補助金	66,471	負担金補助	補助金	36,637	負担金補助	補助金	90,000

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
	給与関係費	5,308	4,930	▲ 378	地方税	0	0	0
	物件費	94	93	▲ 1	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支支出金	29,426	17,635	▲ 11,791
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	68,610	38,742	▲ 29,868	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	139	34	▲ 105
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	29,565	17,669	▲ 11,896
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,372	293	▲ 1,079	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 45,819	▲ 26,389	19,430
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	75,384	44,058	▲ 31,326	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 45,819	▲ 26,389	19,430
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 45,819	▲ 26,389	19,430

備考 区内企業の設備投資等に要する経費の補助が主な費用である。補助費等の減額は、制度改正により、商業・サービス業に属する事業者の利用がなくなったことによる。行政収入は、都からの補助金であり、減少は制度改正によるものである。

問題点・課題
 ・経営環境や新興国を中心とした海外企業との競争激化などで製造業を中心とした区内中小企業は厳しい経営状況下にある。こういった状況のなか、生き残りをかけ設備投資等をおこなう中小企業を支援する補助制度により区内企業を支援することは、非常に重要である。
 ・社会情勢及び経営環境に応じ、当該補助対象を改正しながら、より多くの企業を支援する。
 ・企業相談事業において、当該制度の周知を行い、制度の利用促進を図っていく。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	国の中小企業振興施策及びモノづくりセンサスの調査結果に基づき、労働生産性向上に資する設備を強く後押しする。	補助対象を中小企業者に拡充する共に、労働生産性向上に資する設備を導入する場合には、補助率を上げる等の特例を設けた。	労働生産性向上に資する設備投資補助の利用を促進するために、区内中小企業者へ広くPRしていく。
②			
③			

他区の実況	(実施 1 区 未実施 21 区 不明 0 区)
	港区(小規模企業事業承継支援補助金)

況議(要旨) 平成27年度9月会議 事業をブラッシュアップさせ、一歩踏み込んだ支援
 平成26年度2月会議 国庫補助金を活用し、使い勝手のよい事業として1年継続実施
 平成26年度11月会議 手続きの簡素化や事業10年以上の緩和等、使いやすく
 平成26年度9月会議 事業の更なる周知と期間延長を行ってほしい
 平成26年度6月会議 「愛称名」を付けたらどうか

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-27		戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事
事務事業名	販路開拓支援事業		部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎	
			担当者名	小嶋	内線	459	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-06-05	販路開拓支援事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	29年度	根拠	荒川区産業展補助金交付要綱			
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等	荒川区産業展実施要綱			
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画		<input checked="" type="radio"/> 非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	我が国屈指のものづくり専門展示会である機械要素技術展に団体出展し、地域ブランディング戦略を検討の上、効果的に実施することにより、区内中小企業の販路開拓をBtoB及びBtoCの両面から支援するとともに、「モノづくりのまち あらかわ」のブランド価値向上を図り、区内産業の更なる活性化につなげる。						
対象者等	機械要素技術展：区内に本社登記している製造事業者等 ブランディング戦略：区内に本社、事業所を有する製造業者及び卸売業者等						
内容	<p>【令和元年度実績】</p> <p>1 機械要素技術展 ねじ、ばねなどの機械要素や金属等に関する加工技術を一堂に集めた日本最大級の専門技術展。 開催時期：令和2年2月26日～28日（水曜日から金曜日の3日間） 開催場所：幕張メッセ 出展小間数：4小間（間口5.4m×奥行12m） 出展企業数：5社 企業出展料：1社あたり14万円</p> <p>2 ブランディング戦略 区内事業者のBtoCにおける販路開拓を強化するため、統一したブランドを構築し、販売イベントやデザイナーとコラボレーションした新製品開発等の取組を通じて、ブランドの主旨やロゴ、キャッチコピー、区内産業の持つ魅力や価値等をデザインの力により、視覚的に発信する。 令和元年11月1日 ブランドお披露目イベント 11月2日～4日 販売イベント</p>						
経過	<p>平成28年度 6月 第20回機械要素技術展へ区として初出展</p> <p>平成29年度 4月 経営革新等支援事業の「機械要素技術展共同出展」と「産業展助成」を統合し、販路開拓支援事業とした。</p> <p>6月 第21回機械要素技術展へ出展</p> <p>11月 「荒川モノづくり技あり市」開催</p> <p>平成30年度 6月 第22回機械要素技術展へ出展</p> <p>※ブランディング戦略の検討（ブランディング研究会の設置）</p> <p>令和元年度 7月 ブランディング推進委員会の設置</p> <p>11月 ゆいの森ホールにてモノづくりブランド「ara!kawa」お披露目 AKI-OKAIにて販売会を実施</p> <p>2月 第24回機械要素技術展へ出展</p>						
必要性	本事業は、区内の産業振興に寄与することと考えられ、必要性は高い。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	①【機械要素】名刺交換数（枚）	72.3	60.5	5.8	0	80	期間中に一社当たりが名刺交換した枚数（交換枚数/出展社数）
	②販路開拓セミナー参加者数		93	85	100	100	
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度		3年度					
重点的に推進	重点的に推進 BtoBの「機械要素技術展共同出展」とBtoCの「地域ブランディング推進」の両輪支援により、「モノづくりの街あらかわ」のブランド価値向上を図り、販路開拓の促進につなげるため、重点的に推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額			-	-	16,604	21,671	15,905	18,687
決算額(2年度は見込み)			-	-	16,420	13,721	15,102	18,687
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	共同出展者数(機械要素技術展)			8	12	11	5	0
	使用コマ数(機械要素技術展)			3	6	7	4	0
	使用小間数(荒川モノづくり技あり市)				35			
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)		令和元年度(決算)			令和2年度(予算)			
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	地域ブランディングコーディネート料等	900	報償費	地域ブランディングコーディネート料等	1,258	報償費	地域ブランディングコーディネート料等	2,706
需用費	飲料賄い	6	需用費	飲料賄い等	8	需用費	飲料賄い等	23
役務費	機械要素技術展 電気幹線工事	113	役務費	機械要素技術展 電気幹線工事等	368	役務費	ブランドロゴ商標登録	338
	荒川モノづくり技あり市コンセプトの商標登録等	127	委託料	機械要素技術展 ブース設置等委託	3,707	委託料	機械要素技術展 ブース設置等委託	3,813
委託料	機械要素技術展 ブース設置等委託	4,860	使用料及び賃借料	機械要素技術展 出展料	4,493	使用料及び賃借料	機械要素技術展 出展料	4,536
使用料及び賃借料	機械要素技術展 出展料	7,573		販路開拓セミナー会場使用料	268		販路開拓セミナー会場使用料	271
	販路開拓セミナー会場使用料	142	負担補助及び交付金	ブランディング戦略活動補助	5,000	負担補助及び交付金	ブランディング戦略活動補助	7,000

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
		給与関係費	5,791	5,826		35	地方税	0
物件費	12,706	8,844	▲ 3,862	国庫支出金	0	0	0	
維持補修費	0	0	0	都支支出金	5,122	3,060	▲ 2,062	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	900	6,258	5,358	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	0	19	19	その他	1,580	700	▲ 880	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	6,702	3,760	▲ 2,942	
賞与・退職給付引当金繰入額	1,496	346	▲ 1,150	行政収支差額(a)-(b)-(c)	▲ 14,191	▲ 17,533	▲ 3,342	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	20,893	21,293	400	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 14,191	▲ 17,533	▲ 3,342	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	70	0	▲ 70	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	70	0	▲ 70	当期収支差額(e)+(h)	▲ 14,121	▲ 17,533	▲ 3,412	

備考 機械要素技術展の出展者数減に伴い、物件費(委託料及び出展料)も減。補助費等は、ブランディング推進委員会発足に伴い、活動経費としての補助金を支出したため、増加。行政収入は、都からの補助金及び機械要素技術展へ共同出展した区内企業からの出展料である。

問題点・課題
 ・機械要素技術展の荒川区ブースへの来場者の増加や、共同出展企業の商談数の増加のため、来場者が入りやすく、回遊性があり、一体感のあるデザインとする必要がある。
 ・販売イベント等のあり方や、区内企業の製品をブランド化し、効果的に発信する方法(ブランディング戦略)を検討し、「モノづくりのまち あらかわ」のブランド価値向上を図り、区内産業の更なる活性化に繋げることが重要である。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	機械要素技術展の会場と実施時期の変更に伴い、出展規模を縮小して出展することとする。	機械要素技術展の会場と実施時期の変更に伴い、出展規模を縮小して出展したが、共同出展企業が想定より少なかった。	令和2年度は開催時期等の関係で出展しないこととする。令和3年度以降の出展は開催時期等の状況を踏まえ、検討する。
②	ブランドの発信を開始し、認知度向上のため、新製品開発や製品のブランド認定、販売イベント等を積極的に実施する。	モノづくりブランド「ara!kawa」をお披露目し、販売会を実施し、区内企業や一般消費者にPRすることができた。	松屋銀座への出展をはじめ、新製品開発や製品のブランド認定の仕組みを構築する。
③	区内企業の販路開拓を更に支援するため、販路開拓セミナーの講演テーマを検討した上で実施する。	販路開拓セミナーにおいては、テーマや講師を重点的に検討し、高い満足度を得た。	引き続き、区内企業の販路開拓を更に支援するため、販路開拓セミナーの講演テーマを検討した上で実施する。

他区の実施状況 (実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区)
 【機械要素技術展】葛飾区、品川区、墨田区、板橋区(公社)、大田区(公社)、足立区
 ※大田区は企業の出展はなく、公社の紹介のみ

況議(要旨) 平成27年度11月会議 BtoBの販路開拓支援の強化について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-28	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	ファッション系クリエイター向け創業支援施設開設準備	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎			
		担当者名	鈴木	内線	457			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-09-02	ファッションクリエイター向け創業支援施設運営費						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業							
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 29	年度	根拠					
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画					
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	05	活力ある地域経済づくり					
	施策	02	創業・新事業創出の支援					
目的	日暮里繊維街内にファッション関連産業の創業を支援する拠点を整備し、区内産業活性化に繋がる創業等の機会創出と支援を行い、地域産業の活性化を図る。							
対象者等	ファッション関連産業で創業を目指す（又は創業して概ね5年以内の）個人又は中小企業者							
内容	<p>令和2年度に開設予定の荒川区日暮里地域活性化施設内にファッション関連産業向けの創業支援施設を開設する。</p> <p>【創業支援施設の概要（予定）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 開設時期 令和3年2月頃 場所 荒川区東日暮里六丁目17番6号（荒川区立日暮里地域活性化施設5階） 内容 オフィス4室、シェアオフィス1室（5席）、休憩・打ち合わせコーナー 等 運営 インキュベーションマネージャの配置やセミナー、施設のPR等の運営業務を委託 <p>※施設内の2階・5階の一部を創作コーナー・工房スペースとして民間事業者へ貸付。ミシンやプリンター等のファッション関連の創作機器の貸出や繊維街の素材を活かしたワークショップ等が行われる予定である。</p>							
経過	平成27年9月～12月	日暮里地域活性化施設整備及び運営に関する検討委員会開催（3回）						
	平成28年7月～10月	検討委員会報告書を踏まえた設計に関するプロポーザルの実施						
	平成28年11月～	基本設計の実施						
	平成29年4月～	基本設計に関して「(仮称)日暮里地域活性化施設整備及び運営に関する検討委員会」の委員へ意見聴取						
	平成29年7月	(仮称)日暮里地域活性化施設の整備に関する住民説明会の開催・意見聴取						
	平成29年7月～	意見集約・精査と実施計画への反映						
	平成30年度	ファッション業界に知見を持つ識者へ施設運営に関してのヒアリングを実施						
	令和 2年1月	創作コーナー・工房スペースの貸付先事業者の決定						
	令和 2年4月	創業支援施設の運営事業者選定の決定						
必要性	日暮里繊維街においてファッション関連産業の支援を実施することは、区の産業の活性化を図るうえで重要な施策のひとつである。							
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 直営の施設として、入居者に対して区が使用許可を行い、使用料の徴収は区が行う。入居者への創業や経営支援、セミナーの開催、施設PR等は委託による。（2年度～5年度：㈱ツクリエ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明	
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)		
	①	ファッションビジネスセミナー参加者数	18	35	0	100	135	元年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により未実施
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
重点的に推進	重点的に推進	日暮里繊維街においてファッション関連産業の創業支援を実施することは、地域特性を活かした区の産業の活性化を図るうえで、極めて重要な施策のひとつであることから、重点的に推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額						5,562	5,395	33,784
決算額(2年度は見込み)						152	230	33,784
実績の推移	事項名(2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	ファッションビジネスセミナー参加者数	—	—	17	18	35	—	100
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	運営事業者選定委員謝礼及び		報償費	運営事業者選定委員謝礼及び		報償費	施設運営に関するアドバイザー謝礼等	294
	検討に伴う外部アドバイザー謝礼	52		検討に伴う外部アドバイザー謝礼	130		需用費	光熱水費、消耗品費、修繕費等
委託費	不動産鑑定委託	100	役務費	不動産鑑定委託	100	役務費	電話、郵便、Wi-Fi通信料等	2,736
							委託料	運営業務委託、講演会・公開イベント委託等
						使用料等	コピー機、AED等	204
						備品購入費	備品購入費	6,439

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		30年度	元年度	差額	勘定科目		30年度	元年度	差額
	行政費用	給与関係費		5,791	6,274	483	地方税		0	0
物件費			100	100	0	国庫支出金		0	0	0
維持補修費			0	0	0	都支支出金		0	0	0
扶助費			0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0
補助費等			52	130	78	使用料及び手数料		0	0	0
減価償却費			0	0	0	その他		0	0	0
不納欠損・貸倒引当金繰入額			0	0	0	行政収入合計(a)		0	0	0
賞与・退職給与引当金繰入額			1,496	373	▲1,123	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲7,439	▲6,877	562
その他行政費用			0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0
行政費用合計(b)			7,439	6,877	▲562	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲7,439	▲6,877	562
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲7,439	▲6,877	562	

備考 ・施設開設準備費及び運営委託費等が主な経費である。

問題点・課題

施設の開設について、ファッション関連産業で創業等を志す方々への効果的な周知が必要である。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	施設オープンに向けて、より多くのクリエイター等に注目してもらえるようなセミナーを開催し、施設開設のPRを図る。	令和2年度に効果的なイベントを開催するための予算措置を行った。(令和元年度に予定していたセミナーは新型コロナウイルスの影響で中止)	創業支援施設入居者募集時や施設オープン後にファッション関連の人たちへ向けたPRイベントを実施していく。
②	最適な施設運営方法を決定し、クリエイターやファッション関連産業の支援に適した運営事業者を選定する。	創業支援施設の運営業務委託事業者及び創作コーナー・工房の貸付先事業者をプロポーザルにより選定した。	地域へのファッション関連産業の集積に寄与する施設となるよう、運営事業者と協議を重ね、最適な運営方法を決定する。
③			

他区の実況	(実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区)
【ファッション関連の創業支援施設】台東区(台東デザイナーズビレッジ)、渋谷区(文化ファッションインキュベーション)(令和2年4月末に閉鎖)	

況議(要旨) 況議(要旨) 況議(要旨)

・令和元年度2月会議 日暮里地域活性化施設の機能と地域への貢献について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-29	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事				
事務事業名	創業支援カフェ事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	前田	内線	457		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-09-04	創業支援カフェ事業					
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input checked="" type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input type="radio"/> それ以外の継続事業						
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input checked="" type="radio"/> 令和 2 年度		根拠				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 令和3 年度		法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分 <input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	02	創業・新事業創出の支援				
目的	後継者難等による廃業による地域活力の低下が懸念される状況を踏まえ、従来の起業家支援施策（創業相談、起業家交流会、賃料補助、制度融資等）に加え、新たな人材発掘のため、多様なバックグラウンドを持つ潜在的な創業希望者層が気軽に立ち寄り、自由で活発な交流の中から新ビジネスのアイデアが生まれる空間創出を図り、更なる創業を喚起する。						
対象者等	創業希望者、第二創業希望者 等						
内容	1 開設場所 荒川区立日暮里地域活性化施設内3階（ホワイエと兼用） 2 運用形態 ・週3日、6時間程度開設（サイト上で開設日時を事前告知） ※曜日や時間帯は別途検討 ・コーディネータの配置（スペースの管理、利用者の発掘、利用者同士のマッチング 等） ・利用者の集客や関係深化を目的とする定期的なイベントの開催（外部企画の持ち込みも可） 3 運営形態 コワーキングスペースの運営実績があり、豊富なノウハウを持つ専門事業者へ委託。 4 その他 開設場所は、3階の貸会議室のホワイエを兼ねているため、大規模な集会等で3階会議室全体が使用されるような場合は、集会等によるホワイエ機能を優先。						
経過	令和 2年4月 運営事業者の決定（創業支援施設の運営と一体的に委託） 令和 3年2月頃（予定） 事業開始						
必要性	従来の創業支援の効果一巡に加え、経営者の高齢化等により、事業承継が円滑に進まない状況である。地域活力の維持・向上のためには、従来と角度を変えた支援が求められており、多様なバックグラウンドを持つ人々が集い、共に働き学び合う場の創設を通じて、新ビジネス創出が期待できる。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 日暮里地域活性化施設5階創業支援施設の運営と併せて専門事業者へ委託。 （2年度～6年度：㈱ツクリエ）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 年間延べ利用者数				120	1400	2年度は令和3年2、3月の2か月間の見込み
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
重点的に推進	重点的に推進	従来の発想とは違う新ビジネス創出の可能性を秘めており、地域経済・活力の一層の促進が期待できることから、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
予算額							—	5,350	
決算額（2年度は見込み）							—	5,350	
実績の推移	事項名（2年度は見込み）	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
	年間延べ利用者数	—	—	—	—	—	—	120	
予算・決算の内訳									
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）			
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	
	—			—			需用費	初度調弁、事務用品	200
							委託料	運営委託	2,750
							備品購入費	初度調弁	2,400

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額
行政費用	給与関係費		896	地方税			
	物件費			国庫支出金			
	維持補修費			都支支出金			
	扶助費			分担金及び負担金			
	補助費等			使用料及び手数料			
	減価償却費			その他			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額			行政収入合計(a)	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額		53	行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	▲ 949	
	その他行政費用			金融収支差額(d)			
	行政費用合計(b)	0	949	0	▲ 949	0	
特別費用(g)			特別収入(f)				
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	▲ 949	0		

備考 給与関係費が行政費用の大半を占める。令和2年度からの新規事業であり、元年度は、担当職員が準備事務のみを行ったため、物件費（運営委託料）等の支出はない。

問題点・課題 コワーキングスペースにおける、新ビジネス創出には利用者同士のマッチングが一つのポイントであり、より多くの利用者の集客と、それに引き続く適切なマッチングが重要である。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	—	—	運営受託者と密に連携し、利用者集客のための効率的・効果的なPR等を行う。
②			
③			

他区の実況	(実施 1 区 未実施 21 区 不明 0 区)
	品川区（品川産業支援交流施設 SHIP）
議会議案要旨	

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-30	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	クラウドファンディング活用支援事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	高見	内線	457		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-09-03	クラウドファンディング活用支援事業					
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input checked="" type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input type="radio"/> それ以外の継続事業						
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input checked="" type="radio"/> 令和 2 年度	根拠	荒川区クラウドファンディング活用支援事業補助金交付要綱				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3 年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	02	創業・新事業創出の支援				
目的	区内中小企業者が新製品・新サービス開発等のための資金調達や販路開拓等を図るために、クラウドファンディングを活用した際の費用の一部を補助することにより、新製品開発等を促進し、以って区内産業の振興を目指す。						
対象者等	新製品・新サービス開発等のための資金調達や販路開拓等を図る区内中小企業者						
内容	区内中小企業者が、クラウドファンディングサービス（購入型、寄付型）を利用した際に、当該サービス運営事業者に支払う手数料の一部を補助する。 なお、成功時報酬型（目標調達額を達成した場合にのみ手数料を支払う）及び実施確約報酬型（目標調達額に達しない場合でも手数料を支払う）とも対象とする。 【補助率】一般ルート：1/2、地域産業活性化パートナールート：2/3 【上限額】一般ルート：200千円、地域産業活性化パートナールート：300千円 ※地域金融機関連携型課題解決支援事業（目利き講習）で認定した地域産業活性化パートナーの更なる育成・活用を図るため、目利き講習に参加する金融機関経由での特例枠を設ける。 ※同一年度内の補助回数は、1企業者につき1回とする。						
経過	令和2年度 補助事業開始 令和6年度 補助事業終了（予定） ※新たな資金調達方法に関する一定の啓発効果が現れると考える5年後を事業年限としたサンセット方式とする。						
必要性	金融機関の融資は過去の実績等に重点を置く傾向が強く、起業家等に対する融資姿勢が慎重な一方、クラウドファンディングによる資金調達は、革新的な製品等の創出に繋がる可能性を秘めており、信頼性等を補完するために、行政が活用を支援する意義は高い。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
	① 補助金申請件数				6	6	令和6年度(最終年度)における補助金申請件数
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度	3年度						
重点的に推進	重点的に推進	創業期にある事業者等にとって資金調達の多様化が図れるものである。また、新しい商流となる資金調達方法であり、信頼性の補完という意味においても、行政が支援する意義は高く、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額							-	1,500
決算額（2年度は見込み）							-	1,500
実績の推移	事項名（2年度は見込み）	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	補助金申請件数	-	-	-	-	-	-	6
予算・決算の内訳								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
-			-			補助金	手数料補助	1,500

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額
行政費用	給与関係費		448	地方税			
	物件費			国庫支出金			
	維持補修費			都支支出金			
	扶助費			分担金及び負担金			
	補助費等			使用料及び手数料			
	減価償却費			その他			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額			行政収入合計(a)	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額		27	行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	▲ 475	
	その他行政費用			金融収支差額(d)			
	行政費用合計(b)	0	475	0	▲ 475	0	
特別費用(g)			特別収入(f)				
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	▲ 475	0		

備考 給与関係費が行政費用の大半を占める。令和2年度からの新規事業であり、元年度は、担当職員が補助金交付要綱整備等の準備事務のみを行ったため、補助費等の支出はない。

問題点・課題 従来の金融機関の融資は、過去の実績や担保等に重点を置く傾向が強く、起業家等に対する融資に慎重な側面がある。一方、多数の支援者から小額の資金を募るクラウドファンディングは、従来なかった革新的な製品・サービスの創出に繋がる可能性を秘めており、地域産業の活性化に重要なツールの一つである。また、クラウドファンディングは、我が国では、平成23年前後に誕生した比較的新しいサービスであり、ネットを介しての取引形態であることから、信頼性に一定の懸念があると思われる。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	なし	なし	資金調達だけでなく、テストマーケティングの機能も備えるクラウドファンディングの有効性を積極的にPRしていく。
②			
③			
他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)		
況議(要旨)会質問状	令和元年度9月会議 創業につながるクラウドファンディングの活用について		

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-02-31	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	モノづくり企業地域共生推進事業	部課名	産業経済部経営支援課	課長名	石崎		
		担当者名	大野	内線	459		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-08	モノづくり企業地域共生推進事業					
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input checked="" type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input checked="" type="radio"/> 令和 2 年度	根拠	モノづくり企業地域共生推進補助金交付要綱（都及び区）				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input checked="" type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	05	活力ある地域経済づくり				
	施策	03	企業経営革新の支援				
目的	区内で地域と調和することで持続的な発展を希望する中小企業者が行う地域との共生を図るための取組に対し、補助金を交付することにより、モノづくり企業等の区内における事業の継続を支援するとともに、区内モノづくり産業の維持・発展を図る						
対象者等	地域との共生を図るための取組を通じて持続的な発展を希望する区内中小企業者等						
内容	操業環境の改善等を行う区内中小企業者等に対し、当該改善等に要する経費の一部を補助する。 なお、当該補助金は、東京都の「都内ものづくり企業地域共生推進事業費補助金」を財源の一部とする。 【補助対象者】区内に本社等があり、都内で引き続き1年以上操業している中小モノづくり企業等 【補助対象事業】①操業環境改善事業（防臭、防音、防振のための設備の改修等） ②住民受入環境整備事業（緑道やオープンスペースの整備等） ③耐震補強事業（耐震診断や耐震工事等） 【補助率上限額】①操業環境改善 3/4 375万円（都:250万円 2/4、区:125万円 1/4） ②住民受入環境整備 3/4 375万円（都:250万円 2/4、区:125万円 1/4） ③耐震補強 2/3 1,400万円（都:700万円 1/3、区:700万円 1/3）						
経過	令和2年度 補助事業開始						
必要性	住工が混在する中、工場と近隣の生活環境の改善・向上を図るとともに、区内におけるモノづくり企業の事業継続を図るために、必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み	
	① 補助金申請件数					3	3
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
2年度		3年度					
推進		推進					
中小企業の持続的な成長には、工場と近隣住民の調和を図ることが重要であるため、推進する。							

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額							-	21,500
決算額（2年度は見込み）							-	21,500
実績の推移	事項名（2年度は見込み）	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	補助金申請件数	-	-	-	-	-	-	3
予算・決算の内訳								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
-			-			補助金	操業環境改善等	21,500

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額
行政費用	給与関係費		448	地方税			
	物件費			国庫支出金			
	維持補修費			都支支出金			
	扶助費			分担金及び負担金			
	補助費等			使用料及び手数料			
	減価償却費			その他			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額			行政収入合計(a)	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額		27	行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	▲ 475	
	その他行政費用			金融収支差額(d)			
	行政費用合計(b)	0	475	0	0	▲ 475	
特別費用(g)			通常収支差額(c)+(d)=(e)	0	▲ 475		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	0	▲ 475		

備考 給与関係費が行政費用の大半を占める。令和2年度からの新規事業であり、元年度は、担当職員が補助金交付要綱整備等の準備事務のみを行ったため、補助費等の支出はない。

問題点・課題 近年、都心への通勤等の利便性の高さから、マンション建設等が加速度的に進み、新たに転入してきた住民と町工場との間で、操業環境に関する問題が垣間見えるようになっている。

問題点・課題の改善策			
	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①			制度を積極的にPRし、補助金利用を促進することで、工場と近隣住民の調和を図る。
②			
③			

他区の実況	(実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区)
	<ul style="list-style-type: none"> 3類型：品川、板橋 操業環境改善及び住民受入環境整備：大田、世田谷、足立 操業環境改善のみ：江戸川

況 議会(要旨) 質問状